

V. 研究報告

大学新入生における適応状況と適応過程^(註)

—昭和52年度入学者に対する追跡的研究—

弘前大学 豊嶋 秋彦* 清 俊夫** 芳野 晴男***

I. 問題

「大学生の適応」というトピックのもとに、任意の調査時点を選定し、そこでの全般的な適応状況を求めたり、あるいは、神経症・student apathyといった人格非適応乃至は病理学的問題を担う学生や、留年・退学といった「大学にとっての社会問題」を構成する大学非適応学生などについて、その適応状況・“normal”群との心理学的差異を求める、等の方法によって、従来、多くの調査研究が報告されてきている（遠藤、1970、他⁽¹⁾）。我々は、かかる方法に、大学生生活における epoch making な時点を結んで追跡的に実施する事、大学生をとりまく環境体制と学生との間の「機能的な適応・非適応」（清、1978）の状況をまず明らかにする事、という二つの条件を加えるならば、「大学生の適応」をより十分に把握できることになるだけでなく、ひいては、大学への社会化とそれを媒介とする成人期社会体系への社会化を解明する基礎資料を提供する事になるとともに、実践的に、学生相談を始めとする学生の指導教育の手掛りとしても活用できる事になると考える。かかる意図から我々は、入学から1年次終了⁽²⁾に至る1年間に焦点をあて、昭和52年以来弘前大学の1年次学生を対象に追跡調査を継続してきた。

その際我々は「適応過程」を、一過的・部分的な欲求の（非）充足過程を指す概念（Shaffer）としてではなく、環境一人格間における一過的・部分的な機能関連の重疊の展開の所産として、環境・人格の双方又は一方の system 全体に及ぶ total な（非）適応が準備・形成されるに至るまでの過程と、かかる total な（非）適応の程度・焦点領域の幅が時期的に変容していく過程として考える。かかる「total な適応」の指標は何にとることができるだろうか。機能的水準で適応を把える場合勿論環境⇔人格の二方向性の機能関連を問題とできるが、学生の total な大学適応の検討の要件、即ち、大学組織における価値・規範体系の中で何が formal で pivotal か、の確定はそれ自体大きな研究課題である（江原、Schein）から、ここではとりあえず、大学の total な人格適応に限定

* 保健管理センター講師・心理学

** 教育学部講師・保健管理センター非常勤・発達心理学

*** 教養部助教授・心理学

(註) 本研究はこれまでセンター業務とは無関係に三名の共同研究として遂行されたものであるが、発表の機会をお与え下さった保健管理センター所長・松井哲郎教授に感謝申し上げます。

してその指標を先ず明らかにしておきたい。

入学を契機として学生は大学という行動領域や学生という役割概念をひとつの軸に、「人生指針・生き方」との関連において、生活空間を構造化していくことになるが、その際、彼等にとっての環境体制、即ち、大学を軸とする客観的行動空間と主観的生活空間との接点に展開し、主・客を媒介するものとして、「大学（学生）生活」を定位できよう。従って、学生の適応を問題にする際、大学生活における total で総括的な適応<感>（総括的適応感、summarized adjustment feeling、以下 S A）を大学の total な人格（非）適応の指標と考えることができる。それ故我々は S A を把握するとともに、大学内の formal、informal な局面や、家族・友人・下宿といった大学外的生活領域など、大学（学生）生活の構成要素たりうる中層的水準（安倍）の諸領域に対する学生の関わり・評価を、過去・現在・未来、即ち過去の学生生活に対する回顧的評価・現在への評価、将来の就職にまで及ぶ将来展望～予期的評価、という生活空間の三つの時間次元について明らかにし、それと S A との関連性を明らかにしていかなければならない。

以上の視点から本稿は、特に昭和52年度入学者の1年間の大学生活に焦点をあて、まず大学生活の諸側面・諸領域に対する学生の関わりを全体的状況として記述し、次に S A の主観的規定因を大数的に検討し、更に、S A を含む各領域毎の適応の全体的構造、即ち適応構造を求めながら、新入生の1年間の標準的な適応過程に関する概括的考察を加えようとするものである。⁽³⁾

Ⅱ. 方法・手続

昭和52年度入学者（951名）のうち、緩い学部指定制をとって週6講開講した教養課程の心理学を受講した学生に対して、4月、52年度授業第1週（以下「第1回」）、7月、夏期休暇直前の週（「第2回」）、1～2月、52年度授業の最終週（「第3回」）の三回にわたって、講義時間の1部を割いて、追跡の目的から記名式の質問紙を配布記入させ、その場で回収した。所属氏名が無記入の者も若干いるが、分析対象に含める。各回の有効回答数は表1の通り。但し第3回は都合で理学部クラスには実施できなかった。

表1. 分析対象者 %は入学者に対する百分比

	P	L	E	S	A	M	計 (%)	男 (%)	女 (%)
第1回	276	51	76	126	60	103	692	435 (66.9)	257 (85.7)
(%)	(82.4)	(70.8)	(65.6)	(76.4)	(43.5)	(83.7)	(72.8)		
第2回	196	34	50	75	41	73	469	273 (42.0)	188 (62.7)
(%)	(58.5)	(47.2)	(43.1)	(54.3)	(35.3)	(59.3)	(49.3)		
第3回	192	32	42	1	26	53	346	167 (25.7)	165 (55.0)
(%)	(57.3)	(44.4)	(36.2)	(0.7)	(22.4)	(43.1)	(36.4)		

質問項目のうち、S A は「入学後これまでの学生生活はうまくいっていますか」に対する「非常にうまくいっている」～「非常にうまくいっていない」の五段階評定尺度をその測度とした。主要な質問項目は付・資料Ⅰ～Ⅲの通りだが、その際、第1回は、大学生活の未分化性という时期的特質を考慮し、高校時代～進学期への回顧的評価と教養部生活への予期的評価（展望）を中心に、第2回は、入学から7月までの学生生活への総括的評価と以後の教養部生活への展望を中心に、第3回は、1年間の総括と、第2年次への展望を

中心に夫々質問項目を作成した。回答は、五段階評定、一肢～多肢選択、自由記述のいずれかによる。五段階尺度としては、「非常に肯定的」から「非常に否定的」までの五評語を質問に応じて付した。厳密には一次元的といえない評語も含むが、『非常に肯定的』に1点、『肯定的』に2点、『どちらともいえない』に3点、『否定的』に4点、『非常に否定的』に5点を夫々与え、便宜的に間隔尺度として取扱う。自由記述は、学生の生活空間がどのように分化・焦点づけられているかを知るために採用したが、今回は、学生個々の内的枠組に沿ってではなく、我々の分類枠組に基きカテゴライズして大数的に処理するので、当然、今回の資料は学生の生活空間それ自体を知る直接の手掛りたりえない。

以下、①全体的状況として、主要項目への対象者全体の傾向を述べ、次に、②SAの規定因を、五段階尺度得点間の相関の分析及び、総括的適応群～非適応群間の比較とによって検討し、③五段階尺度についてのセントロイド法、バリマックス回転による因子分析から適応構造を把えたい。さらに、④適応過程は、第1～3回の比較から検討していく。

(なお計算の1部は、本理学部計算センターのOKITAC 50/40によった)

Ⅲ 結果・考察⁽⁶⁾

1 入学直後の状況——第1回調査より

(i) 全体的状況(資料I参照)

過去の諸側面—高校～進学期—：高校生活は明確に余裕があり、満足だったとする者が過半数だが、否定的な者も夫々23%・30%いる。クラス・クラブ活動や学業に最も自我関与しているが、それらを「やりたかったが、やれなかった」とする者も多い。受験勉強はむしろやりたくないがやらざるをえない活動という意味が強い(20%)。しかし、学業は、やりたくない活動としても第1順位(36%)を占め、授(学)業が生活の軸であると共に、その機能は比較的多様に分化している事がわかる。大学進学の詳細な目的ありとする者は70%、進学動機としては職業・資格型が過半数、次に、学問専門志向型が来る(24%)。この2動機は、そのまま学部・学科の当初志望にとって主動機となる(2動機計で、72、84%)。当初志望大学は、大学の社会的水準を考慮して、国立1期が過半数。弘前大学は11%にすぎない。学部・学科については、現在の所属が当初志望と一致する者、しない者が約半数ずつある。弘前大学を受験し入学したのは、自分の学力(75%)、家に近い等の家庭的条件(36%)と職業(30%)を考慮した事による。

これらから、クラス・クラブ活動や授業そのものに自我関与する事で自我均衡を保ちながら、所謂「受験体制」に消極的に適応し、将来の職業を見込み、専門分野への関心を軸に、学力家庭的条件を考慮して当初志望とはかなり異なる大学・学部科(以下、所属枠)に入学したものの、高校生活はさほど緊迫的でも不満足なものでもなかった、と考える新入生が多いことになる。

現在：こうして入学した所属枠の全てに対して、20%強は不満足感～転学(部・科)志向をもつ。不満の理由は多様だが、理由の記入者中40%が当初志望からの level down に言及し、26%が大学の制度・実情が予期に反し劣悪と訴えており、大学についての当初志望や展望と現実との間の gap に起因するものが2割を占めることになる。

SAでは、適応群(1～2点、以下A群)47%、中間群(3点、B)30%、非適応群(4～5点、

C) 23%に分かれる。非適応感の理由は、生活リズムの変調 (57%)、大学外生活領域への不満や、そこでの非適応感 (18%) 等が多く、受験生から大学生への移行に伴い生活空間・生活体制の変容を迫られながら、その再体制化の困難による非適応者が多い事を示す。

未来の諸側面：今後の教養部生活での自我関与的活動としては、学業、単位取得～進級、といった制度的活動をあげるものが過半数 (54%) を占め、クラブ・交友・遊びといった informal な活動は少ない。反面、面白さという面で授業に明確に期待する者 (23%) も少ない。それに対してクラブ・交友には積極的な態度が顕著である。今後の大学生活における非適応を予想する者は7%に過ぎない。要するに、講義には進級に支障のない程度に力を入れ、informalな活動領域には、積極的だが決して自我関与的とは言えない仕方に関わりながら、適応的に教養部を通過できる との展望を抱く者が多いことになる。

(ii) 総括的適応感の規定因 (表2～4参照)

SA 得点と他の16五段階尺度得点との間の相関係数 (r) (表2) は、各項目の関わる領域が大学の total な人格適応にとって焦点領域でありうる程度を示すものである。

表2. 総括的適応感得点との相関 (第1回)

項		目		r	n
①	高校生活の 評 価	余 裕 感		(.073)	684
②		総 括 的 満 足 感		.116	680
③	所属卒への 満 足 感	弘前大学への満足感		.328	685
④		所属学部への "		.222	688
⑤		所属学科への "		.227	638
⑥		転学(部・科)志向の弱さ		.265	686
⑦		③～⑥の合成得点		[.347]	630]
⑧	地 域 (弘 前) へ の 満 足 感		.304	687	
⑯	生 き 方 ・	考える時間の多少(総括)		(.035)	689
⑰	人 生 指 針	確 立 感		(.030)	689
⑳	将来への 予期的 評 価	講 義	予期的 面 白 い	.119	683
㉑			適応感	ついていける	.090
㉒		出 席 意 欲	.105	686	
㉓		教 官 と の 交 流 意 欲		(.042)	683
㉔		サークル・クラブへの関与の積極度		.082	684
㉕		新友人の獲得意欲		.156	686
㉖		今後の全体的適応の予想		.321	682

r () P>.05 他はP<.05 項目番号は第1～3回共通

表3. 適応の規定因——平均値の比較から——(第1回)

総合的 適応感	適応群 (A)		中間群 (B)		非適応群 (C)		A+B+C		A	B	C	A : B	B : C	A : C	
	N	AV (SD)	N	AV (SD)	N	AV (SD)	N	AV (SD)	t	t	t	t	t	t	
①	325.	1.8646 (0.3427)	205.	3.0000 (0.0000)	160.	4.1312 (0.3388)	690	2.7254 (0.9553)							
②	323.	2.5139 (1.0845)	203.	2.6798 (1.0440)	158.	2.7215 (1.2254)	684	2.6111 (1.1094)							
③	321.	2.6044 (1.1357)	203.	2.8719 (1.1490)	156.	2.9231 (1.2367)	680	2.7574 (1.1709)				2.6097 **			2.7858 **
④	325.	2.2308 (0.8814)	203.	2.7192 (1.1013)	157.	3.0764 (1.1522)	685	2.5693 (1.0719)				(5.3256)***	2.9824 ***		(8.0965)***
⑤	325.	2.0585 (0.9556)	205.	2.4098 (1.1061)	158.	2.6139 (1.2089)	688	2.2907 (1.0871)				3.8677 ***			5.0435 ***
⑥	300.	2.1800 (0.9954)	195.	2.6051 (1.1984)	143.	2.7972 (1.3298)	638	2.4483 (1.1685)				(4.1064)***			(4.9153)***
⑦	324.	1.9599 (1.1079)	203.	2.4680 (1.3544)	159.	2.7296 (1.3392)	686	2.2886 (1.2803)				(4.4768)***			(6.2532)***
⑧	299.	8.4482 (2.8708)	192.	10.2448 (3.6735)	139.	11.4029 (3.9850)	630	9.6476 (3.6000)				(5.7300)***	2.7230 **		(7.8209)***
⑨	323.	2.5759 (0.9340)	204.	2.9608 (0.9356)	160.	3.2562 (1.0713)	687	2.8486 (1.0056)				4.5962 ***	2.7965 **		(7.1540)***
⑩	325.	2.4985 (0.9643)	205.	2.5561 (0.9513)	159.	2.5723 (1.1107)	689	2.5327 (0.9953)							
⑪	324.	3.1358 (1.0320)	205.	3.3317 (1.0924)	160.	3.1812 (1.1375)	689	3.2046 (1.0771)				2.0751 *			
⑫	324.	3.0802 (0.8936)	202.	3.3069 (0.8781)	157.	3.3758 (1.0027)	683	3.2152 (0.9233)				2.8433 ***			3.2597 ***
⑬	324.	2.5494 (0.8369)	202.	2.7624 (0.9213)	153.	2.6797 (1.0429)	679	2.0421 (0.9153)				2.7249 **			
⑭	325.	1.7262 (0.7425)	204.	1.8382 (0.8412)	157.	1.9490 (0.8458)	686	1.8105 (0.8009)							2.9417 ***
⑮	323.	2.1703 (0.7952)	202.	2.1931 (0.9073)	158.	2.2785 (0.9831)	683	2.2020 (0.8750)							
⑯	323.	2.6563 (0.7859)	203.	2.7192 (0.7866)	158.	2.7595 (0.8846)	684	2.6988 (0.8099)							
⑰	324.	1.5370 (0.7721)	204.	1.7010 (0.8445)	158.	1.8101 (1.0835)	686	1.6487 (0.8799)				2.2869 *			(2.8284)***
⑱	324.	2.4784 (0.6267)	202.	2.8069 (0.5963)	156.	2.9872 (0.8423)	682	2.6921 (0.7059)				5.9449 ***	(2.2604)*		(6.6848)***

()F, P > .05
 *t, P < .05
 **P < .01
 ***P < .005

なお、⑦は、所属卒全体への満足感をみるために、④～⑥の得点を合計して得た合成得点（4～20点）とのrである。表3は、SAのA・B・C三群について、他16項目の平均得点と群間差を示した。

①高校生活の余裕感、⑱・⑲人生指針に関する2項目、⑳対教官交流意欲の4項目で有意なrに達しない。このうち、人生指針確立感は、A・C両群に比してB群に未確立傾向があるから、確立済みの人生指針と現実とのgapの有無が総括的適応感の規定因になっていると解される。

他の12項目全てとのrは有意。しかし、A～Cの三群間比較では、㉑サークル等への関与の積極度では全く有意差がみられない。それ故、高校生活の余裕感、人生指針を考える時間の多少、対教官交流意欲、サークル等への積極性、の4項目以外の全ての要因とSAとは、ある程度の相互規定の関係にある事になる。

r>.3の項目は、②対大学満足感(.328)、㉒全体的適応の予想(.321)、③弘前にいる事への満足感(.304)の三つであり、また、③～⑥合成得点(⑦)では.347に達し、これらが総括的適応感と強く関連しているといえる。即ち、所属卒及び大学のある地域への満足感にSAは規定されなが

表4. 適応の規定因—5段階評定以外の項目について—(第1回)

項目	カテゴリー	総括的適応感(SA)			$\chi^2(df=1)$			
		適応群(A)	中間群(B)	非適応群(C)	A:B	A:C	A:C	
進学目的	あり	221(68.6)	119(58.0)	107(41.8)	} 6.130*	—	4.204*	
	なし	101(31.4)	86(42.0)	49(19.1)				
	計	322	205	256				
弘大選択理由(1)	学力型	258(79.4)	148(72.2)	111(69.4)	—	—	5.903*	
	性格・適性型	81(24.9)	30(14.6)	23(14.4)	8.037**	—	7.082**	
	職業型	126(38.8)	40(19.5)	43(26.9)	21.671**	—	6.681**	
	「やりたいことができる」型	69(21.2)	21(10.2)	14(8.8)	10.764**	—	11.774**	
	その他型	53(16.3)	44(21.5)	40(25.0)	—	—	5.227*	
	「とくになし」型	14(4.3)	28(13.7)	23(14.4)	15.064**	—	15.420**	
	計	325	205	160				
自我関与的活動	高校	授業・勉学型	66(22.2)	26(13.8)	35(23.0)	} 5.275*	—	4.828*
	他	231(77.8)	162(86.2)	117(77.0)				
	計	297	188	152				
(2) 今後の教養部生活	授業・学業型	107(33.9)	46(24.2)	61(39.4)	5.238*	9.150**	—	
	クラブ・サークル活動型	24(7.6)	4(2.1)	11(7.1)	5.831*	3.984*	—	
	交友関係型	28(8.9)	29(15.3)	9(5.8)	4.866*	7.789**	—	
	他	157(49.7)	111(58.4)	74(47.7)				
	計	316	190	155				

(1) (当該型・全体—当該型)×総括的適応感の二群による χ^2

(2) (各型・他の全ての型×総括的適応感の二群)による χ^2

— P>.05

* P<.05

** P<.01

()は%

ら将来の適応の予想を規定することになる。

また表4からは、適応的なほど進学目的をもっていた事、弘大選択理由は多くの型の動機でA群が多いのに対してC群では不明確又は無動機的理由で入学する傾向がある事、自我関与的活動を授業・学業とする者にA・C群が多い事等が明らかになった。これらは、進学目的の有無や弘大選択理由の型、学業への現在の態度、高校での学業の成就感もSAの規定因であることを示唆する。

(iii) 適応の構造 (表5参照)

表5. 入学時における適応構造と因子負荷量

n=588、ゴジは.3以上

項目		因子							h ² × 100	
		I	II	III	IV	V	VI	VII		
総括的適応感 (SA)		.103	.442	.063	.127	-.168	-.019	-.195	29.2	
①	高校生活 余裕感	.012	.059	-.017	-.070	-.034	-.092	-.459	22.9	
②	の評価 総括的満足感	.139	.072	.166	-.084	-.020	.121	-.537	36.2	
③	④ 所属枠 への 満足感	.452	.646	.028	.096	.086	.100	-.010	65.0	
	弘前大学への満足感	.452	.646	.028	.096	.086	.100	-.010	65.0	
	所属学部への "	.778	.201	.093	.043	-.050	.113	-.125	70.2	
	所属学科への "	.751	.114	.047	.017	-.091	.040	-.085	59.7	
	転学(部・科)志向の弱さ	.447	.474	-.047	.040	-.035	.060	-.071	43.9	
⑧	地域(弘前)への満足感	.058	.551	.054	.070	-.078	.188	-.035	35.7	
⑬	生き方・考える時間の多少総括	-.018	.069	.624	-.031	-.089	.117	-.051	42.0	
⑰	人生指針 確立感	.074	.031	.661	-.075	-.154	.020	-.068	47.7	
⑳	将来への 予期的 評価	講 子期的 面白い	.156	.156	.040	-.045	-.318	.436	.019	34.3
㉑		義 適応感 ついていける	-.006	-.033	.179	.079	-.591	.084	.004	39.6
㉒		出 席 意 欲	-.004	.157	.042	.066	-.001	.419	-.041	20.8
㉓	予期的 評価	教官との交流意欲	.085	-.081	.097	.283	-.075	.456	.071	32.2
㉔		サークル・クラブへの関与の積極度	.067	.082	-.017	.537	-.094	.059	.154	33.5
㉕		新友人の獲得意欲	-.008	.095	-.095	.629	-.011	.129	-.022	43.1
㉖	今後の全体的適応の予想	.179	.282	.106	.104	-.509	.069	-.101	40.7	
Σ a ²		1.697	1.361	0.940	0.840	0.810	0.706	0.615	6.969	
寄与率		10.0%	8.0%	5.5%	4.9%	4.8%	4.2%	3.6%	41.0%	

因子分析は、生活空間各領域、換言すれば、学生生活における適応対象諸領域への学生の関わりが形成する17次元空間を共通因子を軸として再構成する手法であり、学生の適応の大数的構造を提示するとともに、学生の諸領域への関わりについて各因子に代表される現象の類型の存在を示す。

第1回の五段階尺度17項目についての因子分析結果は表4の通りで、7つの共通因子をえ、それらの累積寄与率は41.0%になる。 .3以上を有意な因子負荷量と考え、各因子を次のように解釈した。Iは所属枠への満足因子である。IIは地元大学志向型学生の存在を示唆する「弘前」大学志向因子、IIIは、人生指針確立志向因子、IVは大学生生活の informal 局面への積極性因子、Vは、講義や学業を中心に大学生生活での非適応を予想する、講義—大学の人格非適応展望因子、VIは大学の formal 局面への適応因子、VIIは高校生活の不満因子である。

ここで第V因子は「大学（教養部）生活」を講義という formal な領域と関連させ、他の informal な諸領域からは相対的に分化した生活空間構造をもつ学生層が存在することを示唆する。また、我々が「I. 問題」で提出した、過・現・未、formal-informal、人生指針といった諸次元・側面にはば対応した因子が抽出された点で、我々の基本点観点の妥当性が間接的に支持されている。しかし、SAの h^2 は29.2%とやや小さいから、この時点でのSAと強く関連する領域・側面が他にも存在するかもしれない。より広範な生活空間諸領域との関わりについての項目を加える必要があろう。

2 三ヶ月後の状況—第2回調査より

(i) 全体的状況（資料Ⅱ参照）

過去～現在の諸側面—入学～7月期—：所属卒に対しては大学16%、学部10%、学科14%の不満足者があり、15%が依然として転学（部・科）を考えている。不満足感の理由は、大学の制度・実情（36%）、第一志望からの level down（29%）が依然目立つ。

大学の formal な側面としての講義は、「全体としてつまらない」とする者が過半数（65%）で、ほとんど自我支持機能をもたないが、「ついていけない」は10%「出席率が低い」は3%と、学力や出席を中心にみた場合、殆どが講義への適応感をもつことになる。大学の informal 側面～大学外生活領域については、サークル・クラブ活動に積極的に関与する者44%、参加していない者36%と、両極分化する。下宿・寮生活では、適応群67%・非適応群13%となる。

自我関与的活動としては、サークル・クラブ活動（36%）が最大、次いで読書人間形成（14%）であるが、第1回における自我関与展望（学業+単位で54%、サークル等6%）と比較すると、この間、教養部の講義に対する失望を契機に、大学生活の informal な側面の享受という方向に活動焦点が移行してきたものと解される。中核的自我領域として、クラスの対人関係、サークル・クラブ、下宿・寮生活をあげる者が多い事実もこの仮説を支持する。

SAではA群29%、B38%、C33%となる。総括的な適応感の理由としては、「やりたいことがやれている」等、欲求充足・目標達成といった positive な理由が14%、不満なしといった negative なもの21%、「友人関係がうまくいっている」21%等が多く、制度的活動、即ち、学業に関する理由を記入した者は僅か7名（5%）に過ぎない。他方、非適応感は、生活リズムの乱れ（66%）が最大で、依然として生活の再体制化・調整の失敗感をもつ者が多いといえる。次いで「学業がうまくいかない」といった学業関連の理由が多い（55%）。要するに、学業は総括的適応感の形成要因とはなりにくく、非適応感の形成要因となりやすいと考えられる。

未来の諸側面：非適応群における非適応感の克服方向及び中間群における適応改善方向としては、自己の生活態度の改善といった漠然たる自己努力を強調する反応（17%）の他に、「様々な活動を行う」等の commitment 拡・増大方向におけるもがき（14%）、集中できるものの発見等 identity 形成（13%）といった、青年期後期の発達課題の達成に言及する者が少なからず存在する点が注目される。しかし、「どうすればいいかわからない」と、適応改善の課題に無適応な者も11%いる。

今後の教養部生活での自我関与的活動では、第1回と同様に、制度的活動をあげる者が過半数を占め(52%)、次にサークル・クラブが来る(14%)。また、今後の全体的適応を予想する者は35%であるのに対して、非適応の予想は8%にとどまる。

以上、全体として、これまで余力を入れてこなかった学業等の制度的活動にも自我関与的に関わりながら、SAの中間～非適応群でも適応改善・克服への多様な試行によって、今後の教養部生活を適応的に展開する展望をもつことになる。

(ii) 総括的適応感の規定因(表6～9参照)

SA得点と他の17の五段階尺度得点との相関を表6に示した。rは⑩講義への出席度・⑯対家族

表6. 総括的適応感得点との相関(第2回)

項	目	r	n
③	弘前大学への満足感	.346	462
④	所属枠 所属学部への	.278	461
⑤	への 所属学科への	.189	443
⑥	満足感 転学(部・科)志向の弱さ	.268	460
⑦	[③～⑥の合成得点]	[.364]	439]
⑧	地域(弘前)への満足感	.227	462
⑨	講義の 適応感(面白い)	.272	464
⑩	評価 " (ついていける)	.250	462
⑪	講義への出席度	(.078)	461
⑫	教官との交流度	.106	464
⑬	サークル・クラブへの関与の積極度	.108	463
⑭	友人数の多少	.199	462
⑮	下宿・寮生活での適応感	.381	455
⑯	家族との交流度	(.077)	455
⑰	生きがい・充実感	.428	461
⑱	生き方・ 考える時間の多少(総括)	.196	464
⑲	人生指針 確立感	.181	460
⑳	今後の全体的適応の予想	.378	450

().....P>.05

他.....P<.05

項目番号は、第1～3回共通

交流度の二項目以外では全て有意である。有意でないこの二項目はA・B・C三群比較でも有意差がない。また、⑬サークル等への関与の積極度は、三群比較でA<B(Aがより積極的)の関係のみ有意であり、CはむしろBよりも積極的な傾向をみせるので、SAの弱い規定因として扱えられるが、clear cutではない。従って、この三項目以外の諸項目がSAと(相互)規定的関係にあることになる。r>.3の項目は、⑰生きがい・充実感(.428)、⑮下宿・寮生活での適応感(.381)、⑳全体的適応の予想(.378)、③弘大への満足感(.346)の4項目である。また③～⑥の合成得点(⑦)では.364になる。このうち⑰は、大学生活の中核的な自我支持機能の程度の指標であると考

表7. 適応の規定因一平均値の比較から一(第2回)

総合的 適応感	適応群 (A)		中間群 (B)		非適応群 (C)		A+B+C		A : B		B : C		A : C	
	N	AV (SD)	N	AV (SD)	N	AV (SD)	N	AV (SD)	t	t	t	t	t	t
	159.	1.9686 (0.1751)	146.	3.0000 (0.0000)	159.	4.1195 (0.3254)	464.	3.0302 (0.9173)						
③	158.	2.0823 (0.8136)	145.	2.6207 (0.8746)	159.	2.8616 (1.0218)	467.	2.5161 (0.9613)	5.5329***	(2.2065*)			(7.4904***)	
④	159.	1.9686 (0.7666)	144.	2.4236 (0.9280)	158.	2.5316 (0.9353)	466.	2.3004 (0.9134)	(4.6099***)				(5.8408***)	
⑤	156.	2.1474 (0.9825)	141.	2.4894 (1.0115)	146.	2.5890 (1.0549)	448.	2.3996 (1.0335)	2.9440***				3.7542***	
⑥	159.	1.7736 (1.0183)	145.	2.1862 (1.0671)	156.	2.4423 (1.2763)	465.	2.1226 (1.1578)	3.4374***				(5.1178***)	
⑦	155.	7.9613 (2.4808)	140.	9.6786 (2.8519)	144.	10.3750 (3.1487)	439.	9.3007 (3.0070)	5.5113***				7.3010***	
⑧	159.	2.5094 (0.9992)	146.	2.8219 (0.9733)	157.	3.0573 (1.0875)	467.	2.7944 (1.0423)	2.7535**				4.6497***	
⑨	159.	3.4969 (0.8921)	146.	3.6849 (0.7769)	159.	4.0189 (0.7503)	469.	3.7356 (0.8362)	—	3.8057***			(5.6289***)	
⑩	158.	2.3228 (0.7510)	146.	2.6164 (0.6773)	158.	2.7785 (0.9003)	467.	2.5739 (0.8026)	3.5575***				(4.8702***)	
⑪	158.	2.0759 (0.8412)	145.	2.2483 (0.9093)	158.	2.2278 (0.9436)	466.	2.1760 (0.9011)	—				—	
⑫	159.	4.4214 (0.8220)	146.	4.6027 (0.7285)	159.	4.6352 (0.7748)	469.	4.5544 (0.7788)	2.0247*				2.3791*	
⑬	159.	2.8176 (1.6946)	145.	3.3172 (1.5842)	159.	3.1635 (1.5906)	468.	3.0897 (1.6375)	2.6396**				—	
⑭	158.	2.6078 (0.9296)	146.	3.0411 (0.8211)	158.	2.9937 (0.9477)	467.	2.8715 (0.9222)	4.2811***				3.6443***	
⑮	158.	1.8608 (0.7938)	142.	2.1549 (0.9171)	155.	2.7677 (1.1499)	460.	2.2587 (1.0356)	2.9669***				(5.0801***)	
⑯	157.	2.7134 (1.1605)	144.	2.8125 (1.0642)	154.	2.9221 (1.1291)	460.	2.8043 (1.1225)	—				—	
⑰	159.	2.5346 (0.8699)	145.	3.1586 (0.8950)	157.	3.4968 (0.9583)	466.	3.0579 (0.9897)	6.1411***				3.1521***	9.3180***
⑱	159.	3.0063 (1.1827)	146.	3.1575 (1.1959)	159.	3.5346 (1.1948)	469.	3.2367 (1.2114)	—				2.7433**	3.9500***
⑲	159.	3.2642 (1.2193)	144.	3.4931 (1.1767)	157.	3.7580 (1.2780)	465.	3.5097 (1.2389)	—				—	3.5033***
⑳	154.	2.4026 (0.6106)	141.	2.7801 (0.5867)	155.	2.9677 (0.8251)	454.	2.7137 (0.7230)	5.3859***				2.2618*	(6.8240***)

().....F. P.<.05

*t P.<.05

** P.<.01

*** P.<.005

えられるから、大学生活の全体的自我支持機能、あるいは、自我阻害機能の弱さの指標としてのS Aとの間に高い相関をうるのは当然であろう。

要するに、この時点では、所属枠への満足感や、私生活領域（寮・下宿）での適応感にS Aは強く規定されながら、将来の適応の予想を規定していくことになる。

表8. 中間群・非適応群における総括的適応への方法

S A	中間群 (n=146)	非適応群 (n=159)	$\chi^2(df=1)$
1. アイデンティの形成	21(16.3)	7(8.3)	2.813*
2. コミットメントの増大	25(19.4)	6(7.1)	6.126**
3. // の縮小	0(—)	6(7.1)	7.052***
4. 生活態度の改善	17(13.2)	19(22.6)	3.228*
5. 生活リズムの回復	8(6.2)	11(13.1)	2.976*
6. 考える時間を作る	10(7.8)	9(10.7)	—
7. 環境条件の改善	15(11.6)	5(6.0)	—
8. どうすればいいかわからない	15(11.6)	8(9.5)	—
9. その他	18(14.0)	13(15.5)	—
計 nに対する%	129(100) 88.4%	84(100) 53.4%	45.601***

() は計に対する% *.....P.<.10 **.....P.<.05 ***.....P.<.01

表9. 適応の規定因—卒後進路

S A	適応群(A)	中間群(B)	非適応群(C)	$\chi^2 (df=1)$	
				A vs B	A vs C
就 職	100 (63.3)	70 (48.3)	83 (52.2)	6.922**	3.994*
他	58 (36.7)	75 (51.7)	76 (47.8)		
計	158	145	159		

*.....P.<.05 **.....P.<.01

自由記述や、一・多肢選択項目での群間比較では、B・C群に求めた適応改善方法の自由記述(表8)と、卒後進路に関する項目(表9)の二つで群間差がみられた。特に、適応改善方法では、記入者はB群に多く、無記入者にC群が多い。C群は(再)適応の方向すら明確化できない状態にあるのかもしれない。また、関心対象・活動領域との積極的な関わりによって(再)適応している者(表8の1+2)はBに多いのに対し、Cでは活動領域の縮小や、関心や活動の対象とは無関連な、主体的な生活姿勢の変容等の、自己への“引きこもり”ともいえる方法を考える者(表8の3~6)が多く、C群の反応がB群とは質的にも異なるように思われる。

(iii) 適応の構造(表10参照)

S Aを含む18の五段階尺度得点について、次の7因子をえた。累積寄与率は40.8%で第1回とほぼ等しいが、S Aの h^2 は51.6%と比較的大きい値をえた。各因子の解釈は次の通り。

Iは、「弘前」大学への不満足因子、IIは学部・学科不満足因子、IIIは、講義への適応を中心と

表10. 3ヶ月後における適応構造と因子負荷量

n=396 ゴジは.3以上

項目	因子	I	II	III	IV	V	VI	VII	$h^2 \times 100$
総括的適応感(SA)		-.354	-.135	.241	.137	.205	-.490	-.117	51.6
③	所属校 弘前大学への満足感	-.684	-.320	-.059	.153	-.020	-.045	-.087	60.8
④	への 所属学部への "	-.203	-.833	.045	.166	.026	-.108	-.012	77.7
⑤	満足感 所属学科への "	-.151	-.777	.198	.012	-.030	-.049	.033	67.0
⑥	転学(部・科)志向の弱さ	-.530	-.198	-.046	.128	-.140	-.142	.062	38.2
⑧ 地域(弘前)への満足感		-.517	-.002	-.014	.109	-.014	-.153	-.081	30.9
⑨	講義 適応感(面白い)	-.362	-.032	.126	-.010	.061	.016	-.360	28.1
⑩	の " (ついていけない)	.074	-.091	.600	.037	.048	-.159	-.109	41.4
⑪	評価 講義への出席度	.007	-.056	.062	-.078	-.032	-.036	-.471	23.7
⑫ 教官との交流度		.016	-.024	.370	.144	.191	.191	-.192	26.8
⑬	サークル・クラブへの関与の積極度	-.094	-.070	.079	.578	-.033	.025	.090	36.4
⑭	友人数の多少	-.156	-.037	.053	.553	.129	-.064	.011	35.5
⑮	下宿・寮生活への適応度	-.131	-.066	.052	.025	.051	-.527	-.141	32.5
⑯	家族との交流度	-.056	.100	.045	-.005	.091	-.111	-.375	17.6
⑰ 生きがい・充実感		-.360	-.276	.327	.348	.152	-.174	-.015	48.7
⑱	生き方・考える時間の多少(総括)	.013	.055	.049	-.030	.593	-.107	-.046	37.1
⑲	人生指針 確立感	.019	-.053	.115	.095	.583	-.023	-.024	36.7
⑳ 今後の全体的適応の予想		-.331	-.181	.415	.119	.167	-.276	.015	43.3
Σa^2		1.634	1.605	0.930	0.912	0.879	0.776	0.604	7.341
寄与率		9.1%	8.9%	5.2%	5.1%	4.9%	4.3%	3.4%	40.8%

する適応的展望因子、IVはinformalな活動領域での非適応因子、Vは人生指針確立志向因子、VIは私生活領域での非適応因子、VIIは、出席や家族との交流等に関わる、社会関係からの離脱因子である。

ここでVIIは、SAとは最も関連性が低く、諸関係からの離脱をマイナスとする価値態度をもたない学生層の存在を示唆する。また、①「生きがい」がI、III、IVで有意な負荷量をえ、大学自体、講義との関わり、informal活動自体という三つの生活空間領域で夫々自我支持される学生層の存在と学生の分化を示す。

なお、⑳全体的適応の予想は、第1回と同様、講義への適応感と強い関連がみられた。

3 1年次終了時点の状況—第3回調査より

(i) 全体的状況(資料III参照)

過去～現在の諸側面—教養部期—：依然として、所属校の各々に対し13～16%の不満足者、14%の転学(部・科)志向者が存在し、不満足感の理由としても、大学及びlevel downがやはり過半数(57%)を占める。

講義からは自我支持されない(57%)が、ついていけないとする者は少なく(13%)、教官との交流に乏しい(83%)という点も依然変わらない。下宿・寮生活での非適応感をもつ者は10%である。

1年間を通じた自我関与的活動としては、制度的活動が16%、サークル等33%、交友16%になる。サークル・交友・趣味等のinformalな側面全体としてみると50%で、7月時点(52%)と変化なく、informal側面享受傾向が続いているが、特に、交友関係に自我関与する層の増大(8%→16%、 $\chi^2=4.795$ $P<.05$, $df=1$)が目立つ。他方、中核的自我領域は、サークル・クラブと枠づけるもの22%が1位、次が友人(19%)である。7月時と比べ、友人が12→19%に対し、寮・下宿での対人関係は半減(15→7%、 $\chi^2=10.358$, $P<.01$, $df=1$)、クラスでの対人関係も微減18→14%であり、ここでは、友人と枠づけられる存在に自我支持を求める層の相対的増大がみられる。これらの傾向は、(ii)でみるように、SAと友人数の相関が始めて.3を越えた事実とあわせ、1年間の大学生活の経過の中で、「友人」の重要性が強く浮び上がって来た事を示す。

SAは、A34%、B37%、C29%に分れる。総括的適応感の理由としては、充実感(20%)、友人関係の円滑さ(19%)等が多い。negativeな回答が7月時と比べ減少した(21→12%、 $\chi^2=4.128$, $P<.05$, $df=1$)のは、理由を明確に定位できた者が増大したといえよう。また、人間的成長に言及した者も有意に増大し、(3→12%、 $\chi^2=11.549$, $P<.001$)この間の自我探索(Super)をうかがわせる。反面、学業は僅か1名で、それに対し、非適応感の理由では学業が64%と圧倒的であり、(2)―(i)で指摘した傾向がここにも如実にあらわれた。生活リズムの乱れは7月時から減少(66→50%、 $\chi^2=7.239$, $P<.01$)し、漸く生活体制の調整過程に入りつつあることを示す。

未来の諸側面：次年度の生活のformalな側面としては、講義による自我支持を予想するもの23%、しない者26%、講義への非適応の予想は少ない(「ついていけない」9%、「出席しない」3%)。学部教官・研究室との交流意欲や専門研究意欲に乏しい者も極少(全て4%前後)である。サークル等への関与意欲に乏しい者も少ない(15%)。最も力を入れたい活動(自我関与的活動)では制度的活動が62%、informalなものは15%にとどまる。全体的非適応を予想する者は僅か4.5%に過ぎない。

要するに、次年度については、研究や学業を軸に、大学生活のformalな側面に対する適応意欲をみせ、生活全体を適応的に展開できる、との予想をもつ者が極めて多いことになる。

(ii) 総括的適応感の規定因(表11~13参照)

表11は、SA得点と他27の五段階尺度得点との相関係数である。⑫教養部での対教官交流度、⑬、⑭~⑯次年度大学生活への予想の4項目、の計5項目では有意なrに達せず、群間差(表12)もみられない。また、⑪講義への出席度、⑫専門の研究室との交流意欲では、rは有意だが一貫した群間差がみられない(表12)。これら7項目以外の全ての項目はSAと(相互)規定的関連をもつといえる。

$r>.3$ の項目は、⑳現時点に限定した適応感(.547)、㉑生きがい・充実感(.506)、③大学への満足感(.413)、㉒全体的適応の予想(.388)、⑮下宿・寮での適応感(.324)、⑭友人数(.323)、⑥転学(部・科)志向(.301)の7項目、及び③~⑥の合成得点(⑦、.385)である。この時点でも、特に大学を中心とした所属枠への満足感や、学生生活の支えとしての友人数や私生活領域とし

表11. 総合的適応感得点との相関 (第3回)

項		目	r	n
③		弘前大学への満足感	.413	344
④	所属 への 満足感	所属学部への "	.251	344
⑤		所属学科への "	.170	325
⑥		転学(部・科)志向の弱さ	.301	344
⑦		[③～⑥の合成得点]	[.385]	[325]
⑧		地域(弘前)への満足感	.198	344
⑨	講義 の 評価	適応感(面白い)	.197	342
⑩		"(ついていける)	.186	341
⑪		講義への出席度	.125	341
⑫		教官との交流度	(.036)	341
⑬		サークル・クラブへの関与の積極度	.204	344
⑭		友人数の多少	.323	343
⑮		下宿・寮生活での適応感	.324	273
⑯		家族との交流度	.143	340
⑰		生きがい・充実感	.506	342
⑱	生き方・ 人生指針	考える時間の多少(総括)	.205	344
⑲		確立感	.226	343
⑳		現在の適応感	.547	342
㉑	将来 への 予 期 的 評 価	講 子期的 面白	.186	341
㉒		義 適応感 ついていける	.184	339
㉓		出 席 意 欲	.084	340
㉔	研 究 室 ・ 教 官 と の 関 係	研究室・ 教官との交流意欲	.134	339
㉕		教官との 研究室との交流意欲	.129	336
㉖		関係 研究への意欲	(.095)	335
㉗		サークル・クラブの関与意欲	(.095)	338
㉘		新友人の獲得意欲	(.101)	341
㉙		今後の全体的適応の予想	.388	332

()……P>.05
他………P<.05
項目番号は第1回から共通

ての下宿・寮での適応感によってSAは強く規定されながら、次年度の適応の予想を規定していくものと思われる。

ここで、友人がSAの強い規定因として新たに加わったが、下宿・寮生活の領域と共に、大学生生活の私的側面が全体的適応感形成に及ぼす機能の重要性が増大しつつあることを意味しよう。交友関係を自我関与的活動としてきた者がA群に多い事実と、サークル活動等を将来の自我関与的活動にしようとする者にA・B群が多い事実(表13)は、この仮説をさらに支持している。

また、読書や人間形成に将来自我関与しようとする者がC群に多い(表13)が、総合的な非適応感の“引きこもり”的克服方向((2)―(ii)参照)と関連するかもしれない。

なお、五段階尺度以外の項目でSAと強く関連するものは、この自我関与的活動以外には見出されなかった。

表12. 適応の規定因—平均値の比較から—(第3回)

総合的 適応感	適応群(A)			中間群(B)			非適応群(C)			A+B+C			A : B		B : C		A : C	
	N	AV	(SD)	N	AV	(SD)	N	AV	(SD)	N	AV	(SD)	t	t	t	t	t	
	116.	1.9483	(0.2224)	127.	3.0000	(0.0000)	101.	4.1386	(0.3473)	344.	2.9797	(0.8984)	—	—	—	—	—	
③	116.	2.0776	(0.8356)	127.	2.5354	(0.8432)	101.	2.9604	(0.9478)	346.	2.5029	(0.9364)	4.2281 ***	—	3.5618 ***	7.2581 ***		
④	116.	2.0862	(0.8999)	127.	2.4173	(0.9713)	101.	2.6733	(0.9809)	346.	2.3786	(0.9742)	2.7374 *	—	—	4.5755 ***		
⑤	108.	2.2870	(0.9768)	121.	2.5455	(1.0878)	96.	2.7083	(1.0251)	327.	2.5076	(1.0417)	—	—	—	2.9893 ***		
⑥	116.	1.6293	(0.9558)	127.	2.0651	(1.0259)	101.	2.3564	(1.2457)	346.	1.9971	(1.1073)	3.3248 ***	—	—	4.7470 ***		
⑦	108.	8.0926	(2.5043)	121.	9.6198	(2.7606)	96.	10.6771	(3.0522)	325.	9.4246	(2.9488)	4.3482 ***	—	2.6614 **	(6.5295) ***		
⑧	116.	2.5172	(1.0256)	127.	2.8189	(1.0941)	101.	3.0198	(1.0486)	346.	2.7775	(1.0712)	3.3248 ***	—	—	(4.7470) ***		
⑨	114.	3.4737	(0.9795)	127.	3.5906	(0.8578)	101.	3.8515	(0.8647)	344.	3.6279	(0.9105)	—	—	2.2632 *	2.9675 ***		
⑩	114.	2.5965	(0.8593)	127.	2.7795	(0.7228)	100.	2.9900	(0.8932)	343.	2.7784	(0.8327)	—	—	—	3.2658 ***		
⑪	115.	2.5652	(0.9563)	126.	2.6905	(0.8896)	100.	2.8200	(1.0481)	343.	2.6851	(0.9612)	—	—	—	—		
⑫	115.	4.3478	(0.8890)	127.	4.4016	(0.9450)	99.	4.4343	(0.9811)	343.	4.3907	(0.9329)	—	—	—	—		
⑬	116.	2.5345	(1.6013)	127.	3.3386	(1.4972)	101.	3.2277	(1.5289)	346.	3.0318	(1.5758)	4.0284 ***	—	—	3.2334 ***		
⑭	115.	2.3913	(0.9243)	127.	2.8740	(0.8818)	101.	3.0891	(0.9706)	345.	2.7768	(0.9612)	4.1390 ***	—	—	5.3827 ***		
⑮	91.	1.9231	(0.8973)	96.	2.3333	(0.9366)	86.	2.6047	(0.9855)	275.	2.2800	(0.9731)	3.0388 ***	—	—	4.7882 ***		
⑯	114.	2.5246	(1.0517)	126.	2.5714	(1.0464)	100.	2.7500	(1.0481)	342.	2.5380	(1.0570)	—	—	—	2.9431		
⑰	116.	2.4397	(0.8776)	126.	3.2302	(0.8687)	101.	3.6832	(0.9480)	345.	3.0928	(1.0245)	7.0081 ***	—	3.7320 ***	9.9829 ***		
⑱	116.	2.3621	(1.0986)	127.	2.9685	(1.2783)	101.	2.9703	(1.3073)	346.	2.7630	(1.2564)	(4.1292) ***	—	—	(4.2615) ***		
⑲	115.	3.0087	(1.1810)	127.	3.5039	(1.2207)	101.	3.7030	(1.1962)	345.	3.4000	(1.2281)	3.1873 ***	—	—	4.2653		
⑳	115.	2.3391	(0.8260)	126.	2.8333	(0.7014)	101.	3.4653	(0.8552)	344.	2.8547	(0.9079)	(4.9617) ***	—	(5.9587) ***	9.7884 ***		
㉑	115.	2.8957	(0.9020)	126.	3.0794	(0.8448)	100.	3.2400	(0.9547)	343.	3.0641	(0.9025)	—	—	—	2.7040 **		
㉒	114.	2.4912	(0.7671)	126.	2.7381	(0.7917)	99.	2.8586	(0.8691)	341.	2.6891	(0.8172)	2.4383 *	—	—	3.2616 ***		
㉓	115.	1.8522	(0.8403)	126.	2.0952	(0.8983)	99.	1.9798	(0.9256)	342.	1.9766	(0.8895)	2.1540 *	—	—	—		
㉔	114.	1.8772	(0.8533)	125.	2.2000	(0.9672)	100.	2.1200	(0.9242)	341.	2.0674	(0.9227)	2.7137 **	—	—	1.9882 *		
㉕	113.	1.8319	(0.8335)	124.	2.0968	(0.9578)	99.	2.0404	(0.9785)	338.	1.9852	(0.9291)	2.2519 *	—	—	—		
㉖	112.	1.6875	(0.8278)	124.	1.9032	(0.9663)	99.	1.8586	(0.9148)	337.	1.8160	(0.9073)	—	—	—	—		
㉗	115.	2.6261	(1.0127)	124.	2.6290	(0.9667)	99.	2.6061	(0.9456)	340.	2.6206	(0.9717)	—	—	—	—		
㉘	115.	1.9913	(0.9412)	126.	2.3095	(0.9672)	100.	2.1500	(0.9252)	343.	2.1516	(0.9522)	2.5732 *	—	—	—		
㉙	113.	2.3186	(0.5553)	121.	2.6281	(0.5647)	98.	2.9082	(0.6436)	334.	2.6018	(0.6297)	4.2053 ***	—	3.4121 ***	7.1096 ***		

().....F P>.05 *.....t P<.05 **.....P<.01 ***.....P<.001

表13. 適応の規定因—5段階評定以外の項目について—(第3回)

項 目	カ テ ゴ リ ー	総括的適応感 (S A)			$\chi^2(df=1)$			
		適応群(A)	中間群(B)	非適応群(C)	A : B	B : C	A : C	
自我 関 与 的 活 動	過去～ 現在	交 友 関 係	26(22.8)	12(11.2)	12(13.3)	}5.209**	—	2.978*
		他	88(77.2)	95(88.8)	78(86.7)			
	計	114	107	90				
	将 来	クラブ・サークル活動	12(10.9)	12(10.4)	2(2.2)	—	4.299**	4.650**
		読 書・人 間 形 成	7(6.4)	8(7.0)	17(18.5)	—	5.351**	5.914**
		他	91(82.7)	95(82.6)	73(79.3)			
計		110	115	92				

()は% *.....P.<.10 **.....P.<.05

(iii) 適応の構造 (表14参照)

28の五段階尺度得点について9つの共通因子を得た。累積寄与率は47.8%、SAのh²も53.8%と、第1回以来最大である。各因子は次のように解釈される。Iは、SAや生きがい、全体的適応の予想、私生活領域での適応感など、多くの項目で高い負荷量を与えており、全体的適応の因子、IIは二次での研究志向、因子IIIは講義への積極性因子、IVは所属枠への不満足因子、Vはinformal活動への積極性因子、VIは学力面での講義適応因子、VIIは人生指針未確立因子、VIIIは学科満足因子、IXは社会関係からの離脱因子である。⊗新友人の獲得意欲は、因子I～IXに対して有意な負荷量をもたず共通因子からは独立しており、項目としての重要性は小さいかもしれない。

なお、全体的適応感の因子が抽出された点、また、この因子にSAや生きがい感の有意な因子負荷量が専属し、比較的単純な構造がえられた点に注目したい。

また、ⓐ対地域(弘前)満足感において、これまで結びついていたSAや対大学満足感との関連が弱まってきた点、生活空間構造において「弘前—大学」の「弘前」と「大学」とが漸く領域分化しつつある層の出現を示すものと思われる。

4 1年間の適応過程

適応過程については、前節を中心にこれまで二・三の傾向にふれてきたが、本節ではこれまで触れてこなかった全体的変化を、先ず、第1～3回のうち複数回に亘って実施した同一項目に注目し、そこでの反応の変化を概観したのち、次に、SAとの関連で検討していく。なお、適応構造の変化は各節(iii)項で述べてあるので省略する。

(i) 全体的状況の時期的変化(資料I～III参照)

表15に、同一項目に対する反応の変化について、各項目への肯定的反応群(a)、中間群(b)、否定的反群(c)の度数比較と、各項目の各回平均得点の比較の結果を一括表示した。所属枠への満足感は大学・学部では肯定方向への変化があり、転学(部・科)志向も消失方向にある。しかし、学部・学科不満群の減少がみられず、転学志向は放棄したものの依然現所属の自己を受容できないでいる層が残っている。講義については、講義による自我支持を殆ど感じない層は減少したものの、学力面

表.14 1年後における適応構造と因子負荷量

n = 234, ゴジは.3以上

項目	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	h ² ×100
総括的適応感 (SA)	.680	.036	.061	-.163	.013	.118	-.172	.001	-.016	53.8
③ 所属への満足感	.411	.059	.276	-.565	.065	-.275	.029	-.119	.065	66.6
④ 前所属への満足感	.180	-.040	.023	-.659	-.025	.139	.073	.231	.026	54.8
⑤ 所属への志向の弱さ	.000	.133	-.105	-.540	.063	.221	.037	.378	-.089	52.5
⑥ 満足感	.283	-.034	.005	-.531	.003	.016	-.044	-.140	-.107	39.6
⑧ 地域(弘前)への満足感	.293	.075	.342	-.164	.156	-.162	-.015	-.163	-.064	31.7
⑨ 講義の価値	.105	.022	.521	.006	-.139	.049	-.113	.124	-.096	34.2
⑩ 講義の面白さ(ついていけない)	.100	-.024	.065	.001	-.007	.664	-.095	.007	-.023	46.6
⑪ 講義への出席度	.024	.137	.327	.012	-.063	.058	-.012	.155	-.424	33.8
⑫ 教官との交流度	.087	.066	.082	-.077	.084	.005	-.018	.350	-.125	17.0
⑬ サークル・クラブへの関与の積極度	.187	.036	.012	-.122	.783	-.021	-.036	.108	-.024	61.0
⑭ 友人・教員との多量な交流	.467	.109	.008	-.111	.309	-.038	-.063	.203	.069	39.0
⑮ 下宿生活への適応度	.448	.110	.034	-.122	.004	.053	-.002	.024	-.379	37.6
⑯ 家族との交流度	.052	.055	.122	-.069	.098	-.018	-.250	.093	-.330	21.5
⑰ 生きがい・充実感	.625	.094	.030	-.093	.281	.087	-.132	.257	.032	57.9
⑱ 生き方・考える時間の多少(総括)	.138	.019	-.091	.020	.014	.123	-.686	-.093	-.140	54.3
⑲ 人生指針の確立	.157	-.107	.146	.057	.004	.015	-.669	.081	.042	51.7
⑳ 現在の適応感	.651	-.003	.109	-.110	-.016	.165	-.200	-.076	-.190	55.7
㉑ 将来への適応感	.066	.238	.672	-.031	.090	.200	-.086	.041	.039	57.2
㉒ 講義の面白さ	.134	.103	.132	-.125	.145	.698	-.007	.022	-.036	57.2
㉓ 講義の面白さ	-.006	.154	.623	-.040	.122	.030	.145	-.001	-.161	47.8
㉔ 研究室・教官との交流意欲	.083	.879	.183	.018	.030	.040	.040	.079	-.062	82.8
㉕ 研究室・教官との交流意欲	.072	.877	.149	.016	.029	.019	.070	-.012	-.042	80.6
㉖ 研究室・教官との関係の積極性	.027	.645	.062	-.055	.124	.012	-.011	.038	-.076	44.7
㉗ サークル・クラブへの関与の積極度	.044	.087	.061	.073	.689	.110	.010	.033	-.022	50.8
㉘ 新友人の獲得意欲	.092	.219	-.026	.007	.289	.032	-.050	-.251	-.029	20.8
㉙ 今後の全体的適応の予想	.471	.037	.076	-.103	.006	.374	.049	.018	.017	38.6
Σa ² 寄与率(%)	2.441 9.0	2.211 8.2	1.584 5.9	1.495 5.5	1.417 5.2	1.370 5.1	1.145 4.2	0.643 2.4	0.592 2.2	12.898 47.8

表15. 適応過程—五段階評価項目での反応の変化

項 目		4月→7月	7月→2月	通 年	項 目		4月→7月	7月→2月	通 年
総括的適応感 (SA)	A	18.767↘	—	16.803↘	⑫ 対教官 交流度	a		4.004↗	
	B	—	—	5.472↗		b		6.216↗	
	C	17.025↗	—	4.634↗		c		10.900↘	
	A V	5.395↓	—	4.109↓		A V		2.641↑	
③ 大学への 満足感	b	—	—	4.895↗	⑬ 下宿・寮	b		5.863↗	
	c	4.252↘	—	6.466↗					
④ 学 部	b	5.028↗	—	5.524↗	⑭ 家族との 交流度	a		4.318↗	
	c	8.412↘	4.438↗	—		b		4.452↗	
						c		21.374↘	
⑤ 学 科	a	—	4.609↗	—	⑮ 人 考 生 考 指 時 針 間 確 立 感	a	57.387↘	18.845↗	5.331↘
	c	7.151↘	—	—		b	9.089↘	4.883↗	—
⑥ 転学志向 の弱さ	a	—	—	9.174↗		c	120.255↗	38.319↘	10.619↗
	c	9.181↘	—	11.053↗		A V	10.408↓	5.425↑	2.969↓
	A V	2.241↑	—	3.605↑		a	12.619↘	—	7.345↘
⑧ 地域満足感	a	5.981↗	—	6.014↗	b	4.008↘	5.561↗	—	
	b	4.299↘	—	15.557↘	c	24.774↗	6.745↘	—	
講 義	⑨ 面白い	c	6.147↘		A V	4.436↓	—	2.620↓	
	⑩ ついて いける	a		11.169↘	⑯ 適応予想	A V	—	2.263↓	1.981↑
		b		4.915↗		⑰ サークル		n. s.	
A V		3.522↓		⑱ 友人数					
⑪ 出席	a		20.304↘		⑲ 生きがい				
	c		45.881↗						
	A V		7.710↓						

- (1) a・b・c……当該項目における肯定的・中間・否定的反応群を示す。
a～c欄の数値は χ^2 。↗は増大、↘減少。
- (2) A V欄……当該項目に対する全体の平均得点の差についてのtの値。↑は平均得点上昇、↓は下降。
- (3) χ^2 、tともに $P < .05$ のもののみを表示。
- (4) χ^2 のdf=1、tのdfは表3、7、12を参照せよ。

での適応感や出席度では悪化の兆しがみえる。それに対して、下宿・寮や家族との関わりは肯定的方向に変化している。

人生指針に関しては、入学時での確立感が7月までに一旦崩れ、考える時間も減少する変化に続いて、考える時間が増大したものの入学時の確立感の水準にはまあ及ばない、という通年経過を示し再確立過程を迎えている。当初は「確立していた」という人生指針が、受験や大学合格にひきつけられた暫定的・短期的な性質のものであったり、不本意入学によって長期的人生展望の変更を迫られる場合も多いと思われるし、他方、既にみたように、Identity 確立への試行をみせる層の存在や、7月から2月にかけて人間的成長に言及する層の増大もみられている。要するに、この時期は、多くの学生にとって、自我探索と、青年期後期から成人期までを含む人生指針の探索の時期といえ

よう。

さて次に、SAは否定的方向に、今後の適応予想は肯定的方向へ、という相反する変化がみられる。これに関連して各回のSAと適応予想の間には表16のように、否定的総括をうけて適応的将来展望、にも拘らず否定的総括 という繰り返しがみられ、総括と展望が不一致な学生を含みながら全体的には総括悪化・展望好転の通年経過をとることになり、明るい展望のみ空転する危険性も孕んでいる。

表16. 総括的適応感と適応予想(展望)

	第 1 回		第 2 回		第 3 回	
	総 括	展 望	総 括	展 望	総 括	展 望
適 応 群	47.1	38.3	29.4	34.2	33.7	41.9
中 間 群	29.7	54.4	38.0	56.8	36.9	53.6
非 適 応 群	23.1	7.3	32.6	7.9	29.4	4.5
計	100 (%)	100 (%)	100 (%)	100 (%)	100 (%)	100 (%)

(ii) 総括的適応感の規定因における変化(表2・6・11参照)

ここではSAとのrのうち、各回の間に変化がみられた4項目について述べていく。

⑭人生指針を考える時間において、第1回($r = .035$)と2・3回($.196, .205$)の間でrは有意に増大(夫々 $|t| = 2.716, 2.610$ 、いずれも $P < .01$)し、⑰人生指針確立感でも、.030から.181、.226に同様に増大($|t| = 2.534, P < .05$; $3.015, P < .01$)した。rの値としては低いとはいえ、人生指針形成への積極性と確立感とがSAに対する規定力を次第に増してきており、青年期後期における適応に対する人生指針の機能増大を証拠づけている。

また⑦地域満足感では、通年で.304から.198に減少傾向($|t| = 1.709, P < .10$)をみせ、前節(iii)項で述べた、生活空間の地域関連領域と「大学」生活領域との相対的分化 という仮説を支持しているとともに、例えば、地元大学か否かといった条件は次第に重要性を減じる事を示唆している。

反面、⑭友人数では、第2回.199から第3回.323への増大傾向($|t| = 1.863, P < .10$)をみせ、前節(ii)項における、私的側面の重要性増大仮説を支持している。

なお豊嶋、他(1978)は、所属卒への満足感がSAの間接的指標たりうるのは1年次の初期に限られる、という仮説的考察を行っているが、③～⑥の合成得点(⑦)とSAのrは、.357、.364、.385と、一貫して高い値をえており、従って、制度卒への満足感は年間通じてSAの有効な間接的指標たりえよう。

IV 総括と展望

以上、「大学生活」を構成する諸側面・諸領域に対する大学新入生の関わりについて、各時期の全体的状況・SAとの関連、適応構造の三点を概観し、各時期・各項毎に、いくつかの仮説的検討

を加え、また、新入生の生活空間構造の展開に関するいくつかの示唆をえてきた。ここで特に、大学生生活の開始以降に限って1年間の適応過程について主要な結果を要約すると、次のようになる。

当初志望と異なる所属卒に入学したり、当初展望と大学の実情との gap に直面した事との関連で、所属卒への不満足感が長く残存するが次第に好転していく面ももつ。講義は一貫して自我支持機能をもたず、学業等の制度的活動は適応感の要因とはなりにくく、非適応感の要因となりやすい。反面 informal な生活領域・活動に自我関与し自我支持される学生が増大してくる。大学入学に伴う生活体制の乱れや、初期に訪れる人生観・指針の危機には、調整過程・再確立過程の中での模索が後続し展開していく。SAは、年間を通して大学への満足感に規定され、次第に、私生活領域での適応感や人生指針確立感による規定を受けながら、将来の適応的展望を規定していく。将来の適応予想は講義への関わりと強く関連し、次年度についても、formal な側面への意欲を中心に明るい適応展望を築くが、SAの悪化・展望の好転という一貫した分離傾向もみられている。

かかる新入生像は、従来通念的に語られて来た学生像との一致部分が多いが、とはいえ、それらが客観的に、しかも、大学という下位社会体系における formal な価値・規範 system の一部を構成する「出席すべし」との文化規準からみた大学適応を、調査時点に限られるとはいえ達成している学生について、確認できた点で興味深い。本稿において、各回の出席者の全体的動向から提出した諸仮説を、第1～3回を通じた出席者の資料を抽出した分析や、53年度以降の新入生を対象とする調査研究の中で検討していく事が、我々の今後の課題となる。

註

- (1) 各大学保健管理センター等の紀要・年報を参照したが、文献としては省略する。
- (2) 弘前大学では、医進を除いて、教養部は1年制。文系20単位、理系24単位を取得すれば学部に移籍となる。医進では、2年次は専門基礎科目が中心となる。従って、1年次終了一進級は、殆どの学生にとって専門との出会い—“教養”からの脱出を意味することになる。
- (3) 今回は性別・学部別の検討は行なわない。それらについては、資料Ⅰ～Ⅲ及び文献7・8、13・14を参照されたい。
- (4) 本章の2・3・4節の1部は東北心理学会第31・32回大会に発表した(文献7・8・13・14)。

文 献

1. 安倍淳吉、1969. 社会心理学研究法、北村・安倍・黒田編「心理学研究法」、誠信書房、463—494.
2. 江原武一、1970. 大学における社会化と環境論的接近法、教育社会学研究25、131—145.
3. 遠藤辰雄(編)、1970. 学生生活の心理学的研究—本邦における大学生について—、教育心理学年報、10、78—111.
4. 藤井 虔、1973. 京大生の学生生活への期待と展望、京都大学学生懇話室紀要3、17—25.
5. Porter, L. W. et al., 1975. “Behavior in Organizations”, McGraw-Hill.
6. Schein, E. H., 1968. Organizational socialization and the profession of management, Industrial Management Review (9), 1—16.
7. 清 俊夫、他、1977. 大学生の適応に関する基礎的研究—入学時における満足感を中心にして(1)—、東北心理学研究(2)、14—15.
8. 清 俊夫、他、1978. 大学生の適応に関する基礎的研究(2)—(1)、入学後3ヶ月の時点を中心にして、東北心理学研究(2)(印刷中).
9. 清 俊夫、1978. 文化非適応の社会心理学序説(一)—価値自由の意味をめぐって、弘前大学教育学部紀要(9)、56—62.

10. Shaffer, L. F. 1936. "The Psychology of Adjustment", Houghton-Mifflin.
11. Shaffer, L. F., et al., 1956. "The Psychology of Adjustment (2ed.)", Houghton-Mifflin.
12. 東北大学学生相談所、1977。昭和52年度「学生相談カード」。
13. 豊嶋秋彦、他、1977。大学生の適応に関する基礎的研究—入学時における満足感を中心にして(2)—東北心理学研究叢、16—17。
14. 豊嶋秋彦、1978。大学生の適応に関する基礎的研究(2)—(2)入学後1年の時点を中心にして、東北心理学研究叢(印刷中)。

付・資料

資料Ⅰ 第1回調査集計の主要結果

A. 過去の生活への評価

ア. ① 高校生活の余裕感⁽¹⁾

	男(%)	計 (%)
	女(%)	
①	70(16.3) 27(10.5)	97 (14.1)
②	176(40.9) 98(38.3)	294 (39.9)
③	85(19.8) 69(27.0)	154 (22.4)
④	66(15.3) 54(21.1)	120 (17.5)
⑤	33(7.7) 8(3.1)	41 (6.0)
計	430 256	686

イ. ② 高校生活の総合的満足感⁽¹⁾

P	L	E	S	A	M	男(%)	計 (%)
						女(%)	
49 (15.1)	7 (13.7)	6 (7.9)	11 (8.7)	2 (3.5)	15 (14.9)	42(9.8) 40(15.8)	82 (12.0)
93 (34.3)	18 (35.3)	31 (40.8)	57 (45.2)	27 (47.4)	38 (37.6)	167(38.9) 97(38.3)	264 (38.7)
51 (18.8)	9 (17.6)	12 (15.8)	26 (20.6)	10 (17.5)	22 (21.8)	89(20.7) 41(16.2)	130 (19.1)
65 (24.0)	15 (29.4)	18 (23.7)	23 (18.3)	8 (14.0)	19 (18.8)	87(20.3) 61(24.1)	148 (21.7)
21 (7.7)	2 (3.9)	9 (11.8)	9 (7.1)	10 (17.5)	7 (6.9)	44(10.3) 14(5.5)	58 (8.5)
271	51	76	126	57	101	429 253	682

ウ. 高校時代に最も力を入れた活動(自我関与的活動)⁽⁴⁾

	男	計
	女	
受験勉強・進学	30(7.5) 11(4.6)	41 (6.4)
学業・授業	71(17.7) 57(24.1)	128 (20.0)
クラス活動 クラブ活動	116(28.9) 73(30.8)	189 (29.6)
人生観・読書	15(3.7) 7(3.0)	22 (3.4)
遊び・趣味	51(12.7) 8(3.4)	59 (9.2)
交友関係	41(10.2) 32(13.5)	73 (11.4)
その他	78(19.4) 49(20.7)	127 (20.0)
計	402 237	639

エ. 力を入れたか
ったができた
なかった活動⁽⁴⁾

	男	計
	女	
	10(2.6) 10(4.2)	20 (3.2)
	108(27.8) 66(27.6)	174 (27.7)
	89(22.9) 81(33.9)	170 (27.1)
	15(3.9) 19(7.9)	34 (5.4)
	72(18.5) 23(9.6)	95 (15.1)
	39(10.0) 11(4.6)	50 (8.0)
	56(14.4) 29(12.1)	85 (13.4)
計	389 239	628

オ. やりたくな
かったが、やら
ざるをえなかつ
た活動⁽⁴⁾

	男	計
	女	
	67(20.9) 38(19.1)	105 (20.2)
	109(34.1) 56(28.1)	165 (31.8)
	19(5.9) 9(4.5)	28 (5.4)
	0(0.0) 1(0.5)	1 (0.2)
	8(2.5) 3(1.5)	11 (2.1)
	0(0.0) 1(0.5)	1 (0.2)
	117(36.6) 91(45.7)	208 (40.1)
計	320 199	519

カ. 大学合格後にやろうと思
っていた活動⁽⁴⁾

	男	計
	女	
将来の準備 (専門・職業)	69(16.4) 24(9.6)	93 (13.8)
学業・授業	69(16.4) 49(19.5)	118 (17.5)
クラブ活動 サークル活動	50(11.8) 49(19.5)	99 (14.7)
人生観・読書	55(13.0) 38(15.1)	93 (13.8)
遊び・趣味	95(22.5) 39(15.5)	134 (19.9)
交友関係	18(4.3) 18(7.2)	36 (5.3)
その他	66(15.7) 34(13.6)	100 (14.8)
計	422 251	673

註 1) 表題の番号(①~)は、本文中の表の項目番号に対応する。

2) 表題の肩数字は、(1)五段階評定、(2)一肢選択、(3)多肢選択、(4)自由記述、を示す。

3) 表内の()は%。

4) 五段階評定における①~⑤は、「非常に肯定的」~「非常に否定的」を示す。

5) P・教育学部、L人文学部文学科、E・人文学部経済学科、S・理学部、A・農学部、M・医学部。

6) 計欄の小枠は上が男子計、下が女子計。計は性、学部別の不明な者も含む。

キ. 大学進学目的の有無⁽²⁾

	あり	なし	計
P	192 (69.8)	83 (30.2)	275
L	33 (64.7)	18 (35.3)	51
E	38 (51.4)	36 (48.6)	74
S	73 (58.4)	52 (41.6)	125
A	39 (67.2)	19 (32.8)	58
M	73 (71.6)	29 (28.4)	102
計	267 (62.1)	163 (37.9)	430
	181 (71.0)	74 (29.0)	255
	448	237	685

ク. 進学目的の内容⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
職業・資格	135 (69.9)	8 (25.0)	15 (40.5)	18 (26.1)	14 (36.8)	43 (61.4)	121(46.4) 112(62.9)	233 (53.1)
社会的貢献	6 (3.1)	0 (0.0)	2 (5.4)	1 (1.4)	0 (0.0)	4 (5.7)	7(2.7) 6(3.4)	13 (3.0)
専攻の勉強	22 (11.4)	13 (40.6)	8 (21.6)	31 (44.9)	16 (42.1)	17 (24.3)	81(31.0) 26(14.6)	107 (24.4)
教養	15 (7.8)	7 (21.9)	2 (5.4)	9 (13.0)	3 (7.9)	2 (2.9)	20(7.7) 18(10.1)	38 (8.7)
人生を考える	7 (3.6)	2 (6.3)	2 (5.4)	5 (7.2)	2 (5.3)	1 (1.4)	11(4.2) 8(4.5)	19 (4.3)
遊び	4 (2.1)	2 (6.3)	5 (13.5)	2 (2.9)	1 (2.6)	1 (1.4)	11(4.2) 4(2.2)	15 (3.4)
その他	4 (2.1)	0 (0.0)	3 (8.1)	3 (4.3)	2 (5.3)	2 (2.9)	10(3.8) 4(2.2)	14 (3.2)
計	193	32	37	69	58	70	261 178	439

ケ. 当初の志望大学⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
弘前大学	41 (16.0)	3 (6.3)	3 (4.2)	8 (6.8)	10 (17.9)	8 (8.0)	39(9.5) 34(14.2)	73 (11.3)
国立1期校	72 (28.1)	34 (70.8)	44 (62.0)	85 (72.6)	38 (67.9)	59 (59.0)	250(61.1) 82(34.3)	332 (51.2)
国立2期立 公 立	57 (22.3)	5 (10.4)	11 (15.5)	11 (9.4)	1 (1.8)	15 (15.0)	53(13.0) 47(19.7)	100 (15.4)
私 立	27 (10.5)	5 (10.4)	1 (1.4)	4 (3.4)	1 (1.8)	1 (1.0)	15(3.7) 24(10.0)	39 (6.0)
その他	59 (23.0)	1 (2.1)	12 (16.9)	9 (7.7)	6 (10.7)	17 (17.0)	52(12.7) 52(21.8)	104 (16.0)
計	256	48	71	117	56	100	409 239	648

コ. 当初志望の動機—大学—⁽⁴⁾

	計	
職業・資格	20(5.3) 24(11.2)	44 (9.0)
専攻による 規 定	24(6.4) 13(6.0)	37 (7.5)
学 力	4(1.1) 2(0.9)	6 (1.2)
興味・関心	10(2.7) 7(3.3)	17 (3.5)
家 庭	124(33.0) 89(41.4)	213 (43.4)
大 学 の 社会的水準	97(25.8) 23(10.7)	120 (24.4)
そ の 他	97(25.8) 57(26.5)	154 (31.4)
計	376 215	491

サ. 当初の志望学部⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
現所属と同じ	104 (44.8)	34 (75.6)	37 (50.7)	79 (66.9)	28 (52.8)	49 (51.6)	217(54.1) 114(53.0)	331 (53.7)
現所属と同系	106 (45.7)	10 (22.2)	33 (45.2)	39 (33.1)	22 (41.5)	38 (40.0)	165(41.1) 83(38.6)	248 (40.3)
異系	22 (9.5)	1 (2.2)	3 (4.1)	0 (0.0)	3 (5.7)	8 (8.4)	19(4.7) 18(8.4)	37 (6.0)
計	232	45	73	118	53	95	401 215	616

シ. 当初志望学科⁽⁴⁾

計	
140(49.3) 74(43.0)	214 (46.9)
121(42.6) 77(44.8)	198 (43.4)
23(8.1) 21(12.2)	44 (9.6)
284 172	456

ス. 当初志望の動機—学部—⁽⁴⁾

	計	
職業資格	83 (25.0)	165
	82 (45.8)	(32.3)
専攻による規定	78 (23.5)	116
	38 (21.2)	(22.7)
学力	22 (6.6)	29
	7 (3.9)	(5.7)
興味・関心	102 (30.7)	143
	41 (22.9)	(29.8)
その他	47 (14.1)	58
	11 (6.2)	(11.4)
計	332	511
	179	

セ. 一学科—⁽⁴⁾

計	
30 (12.2) 38 (24.8)	68 (17.1)
—	—
10 (4.1) 6 (3.9)	16 (4.0)
169 (69.0) 100 (65.4)	269 (67.6)
36 (14.6) 9 (5.9)	45 (11.3)
245 153	398

ソ. 現所属に決めた理由⁽³⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
学力	209 (75.7)	42 (82.4)	59 (77.6)	91 (72.2)	49 (81.7)	69 (67.0)	328 (75.4) 191 (74.3)	519 (75.0)
性格・適性	47 (17.0)	19 (37.3)	9 (11.8)	27 (21.4)	16 (26.7)	16 (15.5)	87 (20.0) 47 (18.3)	134 (19.4)
職業	119 (43.1)	6 (11.8)	13 (17.1)	23 (18.3)	13 (21.7)	36 (35.0)	122 (28.0) 88 (34.2)	210 (30.3)
やりたいことができそう	34 (12.3)	7 (13.7)	10 (13.2)	26 (20.6)	17 (28.3)	10 (9.7)	78 (17.9) 26 (10.1)	104 (15.0)
家が近い	142 (51.4)	17 (33.3)	26 (34.2)	35 (27.8)	20 (33.3)	12 (11.7)	121 (27.8) 131 (51.0)	252 (36.4)
弘前という街にひかれて	42 (15.2)	14 (27.5)	14 (18.4)	14 (11.1)	14 (23.3)	14 (13.6)	79 (18.2) 33 (12.8)	112 (16.2)
その他	39 (14.1)	10 (19.6)	14 (18.4)	31 (24.6)	10 (16.7)	34 (33.0)	105 (24.1) 33 (12.8)	138 (19.9)
とくになし	27 (9.8)	7 (13.7)	11 (14.5)	11 (8.6)	5 (8.3)	7 (6.8)	46 (10.6) 21 (8.6)	67 (9.7)

B. 人生指針・生き方

タ. ⑬考える時間の多小 (総括)⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	28 (10.1)	10 (19.6)	9 (11.8)	15 (11.9)	5 (8.3)	23 (22.5)	60 (13.8) 30 (11.7)	90 (13.0)
②	127 (46.0)	18 (35.3)	26 (34.2)	52 (41.3)	27 (45.0)	40 (39.2)	167 (38.5) 123 (47.9)	290 (42.0)
③	77 (27.9)	12 (23.5)	19 (25.0)	40 (31.7)	16 (26.7)	20 (19.6)	121 (27.9) 63 (24.5)	184 (26.6)
④	42 (15.2)	9 (17.6)	16 (21.1)	17 (13.5)	12 (20.0)	12 (11.8)	68 (15.7) 40 (15.6)	108 (15.6)
⑤	2 (0.7)	2 (3.9)	6 (7.9)	2 (1.6)	0 (0.0)	7 (6.9)	18 (4.1) 1 (0.4)	19 (2.7)
計	276	51	76	126	60	102	434 257	691

チ. ⑭確立感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	9 (3.3)	3 (5.9)	1 (1.3)	2 (1.6)	1 (1.7)	7 (6.8)	17 (3.9) 6 (2.3)	23 (3.3)
②	77 (27.9)	9 (17.6)	13 (17.1)	26 (20.8)	13 (21.7)	33 (32.0)	105 (24.2) 66 (25.7)	171 (24.7)
③	89 (32.2)	19 (37.3)	29 (38.2)	52 (41.6)	19 (31.7)	33 (32.0)	152 (35.0) 89 (34.6)	241 (34.9)
④	67 (24.3)	10 (19.6)	15 (19.7)	30 (24.0)	13 (21.7)	18 (17.5)	84 (19.4) 69 (26.8)	153 (22.1)
⑤	34 (12.3)	10 (19.6)	18 (23.7)	15 (12.0)	14 (23.3)	12 (11.7)	76 (17.5) 27 (10.5)	103 (14.9)
計	276	51	76	125	60	103	434 257	691

C. 現在の生活への評価

ツ. ⑮弘前大学入学への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	53 (19.3)	4 (8.0)	1 (1.3)	15 (12.1)	12 (20.0)	12 (11.8)	56 (13.0) 41 (16.1)	97 (14.1)
②	114 (41.5)	20 (40.0)	35 (46.1)	40 (32.3)	23 (38.3)	46 (45.1)	171 (39.6) 107 (42.0)	278 (40.5)
③	67 (24.4)	11 (22.0)	14 (18.4)	36 (29.0)	16 (26.7)	26 (25.5)	104 (24.1) 66 (25.9)	170 (24.7)
④	30 (10.9)	12 (24.0)	19 (25.0)	25 (20.2)	6 (10.0)	15 (14.7)	75 (17.4) 32 (12.5)	107 (15.6)
⑤	11 (4.0)	3 (6.0)	7 (9.2)	8 (6.5)	3 (5.0)	3 (2.9)	26 (6.0) 9 (3.5)	35 (5.1)
計	275	50	76	124	60	102	432 255	687

テ. ④学部への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	65 (23.6)	10 (19.6)	4 (5.3)	37 (29.4)	8 (13.6)	54 (52.4)	122 (28.2) 56 (21.8)	178 (25.8)
②	91 (33.0)	28 (54.9)	34 (45.3)	56 (44.4)	30 (50.8)	25 (24.3)	166 (38.3) 98 (38.1)	264 (38.3)
③	59 (21.4)	9 (17.6)	20 (26.7)	20 (15.9)	15 (25.4)	16 (15.5)	82 (18.9) 57 (22.2)	139 (20.1)
④	45 (16.3)	3 (5.9)	12 (16.0)	11 (8.7)	5 (8.5)	7 (6.8)	48 (11.1) 35 (13.6)	83 (12.0)
⑤	16 (5.8)	1 (2.0)	5 (6.7)	2 (1.6)	1 (1.7)	1 (1.0)	15 (3.5) 11 (4.3)	26 (3.8)
計	276	51	75	126	59	103	433 257	690

ト. ⑤学科(専攻)への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	56 (20.4)	13 (27.1)	2 (2.9)	36 (29.3)	11 (18.6)	31 (47.0)	103 (26.3) 46 (18.5)	149 (23.3)
②	84 (30.7)	22 (45.8)	27 (38.6)	49 (39.8)	24 (40.7)	14 (21.2)	136 (34.8) 84 (33.7)	220 (34.4)
③	62 (22.6)	10 (20.8)	19 (27.1)	26 (21.1)	16 (27.1)	11 (16.7)	83 (21.2) 61 (24.5)	144 (22.5)
④	46 (16.8)	2 (4.2)	16 (22.9)	8 (6.5)	7 (11.9)	7 (10.6)	47 (12.0) 39 (15.7)	86 (13.4)
⑤	26 (9.5)	1 (2.1)	6 (8.6)	4 (3.3)	1 (1.7)	3 (4.5)	22 (5.6) 19 (7.6)	41 (6.4)
計	274	48	70	123	59	66	391 249	640

ナ. ⑥再受験転学部科志向の弱さ⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	115 (41.8)	18 (36.7)	22 (28.9)	40 (31.7)	20 (33.9)	51 (49.5)	168 (39.0) 98 (38.1)	266 (38.7)
②	63 (22.9)	11 (22.4)	17 (22.4)	24 (19.0)	10 (16.9)	22 (21.4)	78 (18.1) 69 (26.8)	147 (21.4)
③	39 (14.2)	7 (14.3)	16 (21.1)	28 (22.2)	12 (20.3)	20 (19.4)	81 (18.8) 41 (16.0)	122 (17.7)
④	42 (15.3)	11 (22.4)	16 (21.1)	25 (19.8)	15 (25.4)	8 (7.8)	79 (18.3) 38 (14.8)	117 (17.0)
⑤	16 (5.8)	2 (4.1)	5 (6.6)	9 (7.1)	2 (3.4)	2 (1.9)	25 (5.8) 11 (4.3)	36 (5.2)
計	275	49	76	126	59	103	431 257	688

ニ. 現所属（大学・学部・学科）への不満の内容⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
過去との関連	2 (1.7)	1 (5.6)	0 (0.0)	3 (5.6)	0 (0.0)	10 (33.3)	13 (7.6) 3 (2.8)	16 (5.7)
大学の制度・実情	27 (22.7)	5 (27.8)	6 (16.7)	22 (40.7)	3 (13.0)	9 (30.0)	50 (29.1) 22 (20.4)	72 (25.7)
当初志望からのレベルダウン	40 (33.6)	10 (55.6)	22 (61.1)	17 (31.5)	13 (56.5)	9 (30.0)	75 (43.6) 36 (33.3)	111 (39.6)
志望進路にとって所属が不適切	6 (5.0)	1 (5.6)	4 (11.1)	4 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (5.8) 5 (4.6)	15 (5.6)
学部(科)に規定される将来のコースに自分が不適	33 (27.7)	0 (0.0)	2 (5.6)	3 (5.6)	1 (4.3)	2 (6.7)	11 (6.4) 30 (27.8)	41 (14.6)
その他	11 (9.2)	1 (5.6)	2 (5.6)	5 (9.3)	6 (26.1)	0 (0.0)	13 (7.6) 12 (11.1)	25 (8.9)
計	119	18	36	54	23	30	172 108	280

ス. ③地域（弘前）への満足感⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	26 (9.5)	5 (9.8)	3 (3.9)	9 (7.1)	7 (11.7)	3 (2.9)	33 (7.6) 20 (7.8)	53 (7.7)
②	91 (33.2)	17 (33.3)	17 (22.4)	37 (29.4)	20 (33.3)	25 (24.5)	117 (27.0) 90 (35.3)	207 (30.0)
③	105 (38.3)	14 (27.5)	29 (38.2)	53 (42.1)	22 (36.7)	39 (38.2)	169 (38.9) 93 (36.5)	262 (38.0)
④	35 (12.8)	12 (23.5)	20 (26.3)	23 (18.3)	6 (10.0)	29 (28.4)	85 (19.6) 40 (15.7)	125 (18.1)
⑤	17 (6.2)	3 (5.9)	7 (9.2)	4 (3.2)	5 (8.3)	6 (5.9)	30 (4.9) 12 (4.7)	42 (6.1)
計	274	51	76	126	60	102	434 255	689

ネ. 大学生生活における総括的適応感⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	17 (6.2)	2 (3.9)	4 (5.3)	8 (6.3)	5 (8.3)	8 (7.8)	33 (7.6) 11 (4.3)	44 (6.4)
②	118 (43.1)	23 (45.1)	31 (40.8)	48 (38.1)	24 (40.0)	37 (35.9)	167 (38.4) 114 (44.7)	281 (40.7)
③	74 (27.0)	16 (31.4)	25 (32.9)	46 (36.5)	17 (28.3)	27 (26.2)	134 (30.8) 71 (27.8)	205 (29.7)
④	52 (19.0)	10 (19.6)	16 (21.1)	20 (15.9)	13 (21.7)	28 (27.2)	88 (20.2) 51 (20.0)	139 (20.1)
⑤	13 (4.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (3.2)	1 (1.7)	3 (2.9)	13 (3.0) 8 (3.1)	21 (3.0)
計	274	51	76	126	60	103	435 255	690

ノ. 総括的非適応感の理由⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
将来について	2 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.7)	1 (6.3)	0 (0.0)	1 (1.0) 4 (6.8)	5 (3.0)
大学について	3 (4.4)	1 (10.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (6.5)	2 (1.9) 5 (8.5)	7 (4.3)
大学外の環境について	12 (17.6)	3 (30.0)	3 (18.8)	2 (8.7)	2 (12.5)	7 (22.6)	23 (21.9) 6 (10.2)	29 (17.7)
過去との関連	6 (8.8)	0 (0.0)	1 (6.3)	3 (13.0)	1 (6.3)	3 (9.7)	5 (4.8) 9 (15.3)	14 (8.5)
生活のリズム	24 (35.3)	5 (50.0)	6 (37.5)	5 (21.7)	4 (25.0)	16 (51.6)	43 (41.0) 17 (28.8)	60 (36.6)
一般的不適応感	10 (14.7)	0 (0.0)	2 (12.5)	7 (30.4)	4 (25.0)	2 (6.5)	16 (15.2) 9 (15.3)	25 (15.2)
その他	11 (16.2)	1 (10.0)	3 (18.8)	4 (17.4)	4 (25.0)	1 (3.2)	15 (14.3) 9 (15.3)	24 (14.6)
計	68	10	16	23	16	31	105 59	164

D. 将来の生活の予想・展望

ハ. 教養部生活で最も力を入れたい活動(自我関与的活動)⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
将来(専攻学科の準備)	7 (2.6)	13 (27.1)	4 (5.7)	4 (3.4)	1 (1.7)	5 (5.0)	19 (4.6) 15 (6.0)	34 (5.1)
出席・単位・進級	87 (32.5)	5 (10.4)	5 (7.1)	16 (13.6)	14 (23.7)	17 (17.0)	79 (19.0) 65 (26.2)	144 (21.7)
学業それ自体	98 (36.6)	12 (25.0)	21 (30.0)	41 (34.7)	21 (35.6)	22 (22.0)	128 (30.8) 87 (35.1)	215 (32.4)
クラブ・サークル・クラス活動	11 (4.1)	1 (2.1)	6 (8.6)	7 (5.9)	4 (6.8)	10 (10.0)	28 (6.7) 11 (4.4)	39 (5.9)
読書・人間形成	27 (10.1)	8 (16.7)	11 (15.7)	18 (15.3)	8 (13.6)	12 (12.0)	50 (12.0) 34 (13.7)	84 (12.7)
体力・精神力の獲得	4 (1.5)	1 (2.1)	2 (2.9)	3 (2.5)	1 (1.7)	9 (9.0)	16 (3.9) 4 (1.6)	20 (3.0)
遊び・趣味	3 (1.1)	2 (4.2)	1 (1.4)	8 (6.8)	3 (5.1)	14 (14.0)	28 (6.7) 3 (1.2)	31 (4.7)
交友関係	22 (8.2)	2 (4.2)	12 (17.1)	17 (14.4)	5 (8.5)	8 (8.0)	43 (10.4) 23 (9.3)	66 (10.0)
その他	9 (3.4)	4 (8.3)	8 (11.4)	4 (3.4)	2 (3.4)	3 (3.0)	24 (5.8) 6 (2.4)	30 (4.5)
計	268	48	70	118	59	100	415 248	663

ヒ. ②講義の予想—教養部—面白さ⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	9 (3.3)	1 (2.0)	1 (1.3)	5 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (2.8) 4 (1.6)	16 (2.3)
②	63 (23.2)	7 (14.0)	17 (22.4)	31 (24.8)	7 (11.7)	14 (13.6)	86 (20.0) 53 (20.9)	139 (20.3)
③	113 (41.7)	25 (50.0)	25 (32.9)	48 (38.4)	20 (33.3)	27 (26.2)	136 (31.6) 122 (48.0)	258 (37.7)
④	72 (26.6)	17 (34.0)	27 (35.5)	37 (29.6)	27 (45.0)	46 (44.7)	158 (36.7) 68 (26.8)	226 (33.0)
⑤	14 (5.2)	0 (0.0)	6 (7.9)	4 (3.2)	6 (10.0)	16 (15.5)	39 (9.0) 7 (2.8)	46 (6.7)
計	271	50	76	125	60	103	431 254	685

フ. ②講義への適応の予想・ついていける⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	10 (3.7)	5 (10.0)	9 (11.8)	11 (8.9)	5 (8.5)	19 (18.6)	51 (11.9) 8 (3.2)	59 (8.7)
②	91 (33.7)	17 (34.0)	35 (46.1)	56 (45.2)	17 (28.8)	48 (47.1)	176 (41.1) 88 (34.8)	264 (38.8)
③	103 (38.1)	16 (32.0)	23 (30.3)	35 (28.2)	23 (39.0)	26 (25.5)	134 (31.3) 92 (36.4)	226 (33.2)
④	60 (22.2)	12 (24.0)	8 (10.5)	22 (17.7)	13 (22.0)	9 (8.8)	62 (14.5) 62 (24.5)	124 (18.2)
⑤	6 (2.2)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	5 (1.2) 3 (1.2)	8 (1.2)
計	270	50	76	124	59	102	428 253	681

ヘ. ②今後の全体的適応の予想 (教養部について)⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	7 (2.6)	0 (0.0)	3 (3.9)	3 (2.4)	1 (1.7)	1 (1.0)	11 (2.5) 4 (1.6)	15 (2.2)
②	80 (29.4)	20 (40.8)	29 (38.2)	49 (38.9)	20 (33.3)	49 (48.5)	164 (38.0) 83 (32.9)	247 (36.1)
③	162 (59.6)	25 (51.0)	38 (50.0)	70 (55.6)	30 (50.0)	47 (46.5)	222 (51.4) 150 (59.5)	372 (54.4)
④	11 (4.0)	4 (8.2)	6 (7.9)	4 (3.2)	7 (11.7)	2 (2.0)	25 (5.8) 9 (3.6)	34 (5.0)
⑤	12 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.3)	2 (2.0)	10 (2.3) 6 (2.4)	16 (2.3)
計	272	49	76	126	60	101	432 252	684

ホ. 学部移籍後の中核的活動⁽⁴⁾

	計	
	将 来 (専攻の研究・免許等)	190 (52.1) 119 (54.8)
単 位・卒 業	22 (6.0) 17 (7.8)	39 (6.7)
学 業・授 業	65 (17.8) 42 (19.4)	107 (18.4)
クラブ・サークル活動	6 (1.6) 1 (0.5)	7 (1.2)
読 書・人 生 観	13 (3.6) 7 (3.2)	20 (3.4)
体 力・精 神 力	5 (1.4) 7 (3.2)	12 (2.1)
遊 び・趣 味	6 (1.6) 1 (0.5)	7 (1.2)
交 友 関 係	6 (1.6) 5 (2.3)	11 (1.9)
そ の 他	52 (14.2) 18 (8.3)	70 (12.0)
計	365 217	582

マ. 卒業後の志望進路⁽²⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
大 学 院	21 (7.7)	11 (21.6)	10 (13.3)	67 (53.2)	11 (18.3)	44 (43.6)	141 (32.7) 23 (9.0)	164 (23.9)
就 職	204 (74.5)	27 (52.9)	51 (68.0)	32 (25.4)	31 (51.7)	28 (27.7)	183 (42.5) 189 (73.8)	372 (54.1)
未 定	47 (17.2)	13 (25.5)	14 (18.7)	27 (21.4)	17 (28.3)	29 (28.7)	105 (24.4) 43 (16.8)	148 (21.5)
家 事・家 業	2 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	2 (0.5) 1 (0.4)	3 (0.4)
計	274	51	75	126	60	101	431 256	687

資料Ⅱ 第2回調査集計の主要結果

A. 人生指針・生き方

ア. ⑱考える時間の多少(総括)⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	16 (8.2)	6 (17.6)	3 (6.0)	4 (5.3)	2 (4.9)	7 (9.6)	23 (8.4) 15 (8.0)	38 (8.1)
②	50 (25.5)	11 (32.4)	15 (30.0)	19 (25.3)	6 (14.6)	13 (17.8)	60 (22.0) 51 (27.1)	114 (24.3)
③	35 (17.9)	4 (11.8)	9 (18.0)	18 (24.0)	7 (17.1)	16 (21.9)	60 (22.0) 29 (15.4)	89 (19.0)
④	63 (32.1)	7 (20.6)	17 (34.0)	28 (37.3)	19 (46.3)	21 (28.8)	88 (32.2) 63 (33.5)	155 (33.0)
⑤	32 (16.3)	6 (17.6)	6 (12.0)	6 (8.0)	7 (17.1)	16 (21.9)	42 (15.4) 30 (16.0)	73 (15.6)
計	196	34	50	75	41	73	273 188	469

イ. ⑲確立感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	19 (9.7)	5 (14.7)	6 (12.0)	3 (4.1)	2 (4.9)	7 (9.7)	27 (10.0) 15 (8.0)	42 (9.0)
②	21 (10.8)	5 (14.7)	4 (8.0)	7 (9.6)	1 (2.4)	8 (11.1)	27 (10.0) 18 (9.6)	46 (9.9)
③	53 (27.2)	9 (26.5)	13 (26.0)	26 (35.6)	10 (24.4)	25 (34.7)	79 (29.3) 54 (28.9)	136 (29.2)
④	41 (21.0)	6 (17.6)	17 (34.0)	22 (30.1)	15 (36.6)	14 (19.4)	65 (24.1) 48 (25.7)	115 (24.7)
⑤	61 (31.3)	9 (26.5)	10 (20.0)	15 (20.5)	13 (31.7)	18 (25.0)	72 (26.7) 52 (27.8)	126 (27.1)
計	195	34	50	73	41	72	270 187	465

B. 現在までの生活の評価

ウ. ⑳弘前大学入学への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	25 (12.8)	3 (8.8)	3 (6.3)	2 (2.7)	8 (19.5)	12 (16.4)	35 (12.9) 17 (9.1)	53 (11.3)
②	91 (46.4)	17 (50.0)	26 (54.2)	37 (49.3)	17 (41.5)	21 (28.8)	118 (43.4) 87 (46.5)	209 (44.8)
③	56 (28.6)	11 (32.4)	10 (20.8)	23 (30.7)	11 (26.8)	20 (27.4)	69 (25.4) 60 (32.1)	131 (28.1)
④	19 (9.7)	3 (8.8)	6 (12.5)	10 (13.3)	4 (9.8)	17 (23.3)	38 (14.0) 20 (10.7)	59 (12.6)
⑤	5 (2.6)	0 (0.0)	3 (6.3)	3 (4.0)	1 (2.4)	3 (4.1)	12 (4.4) 3 (1.6)	15 (3.2)
計	196	34	48	75	41	73	272 187	467

エ. ④学部への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	26 (13.3)	6 (17.6)	1 (2.0)	12 (16.0)	5 (12.5)	31 (42.5)	58 (21.3) 22 (11.8)	81 (17.4)
②	82 (42.1)	23 (67.6)	31 (63.3)	37 (49.3)	19 (47.5)	27 (37.0)	130 (47.8) 85 (45.5)	219 (47.0)
③	56 (28.7)	3 (8.8)	14 (28.6)	25 (33.3)	12 (30.0)	10 (13.7)	63 (23.2) 55 (29.4)	120 (25.8)
④	27 (13.8)	1 (2.9)	1 (2.0)	1 (1.3)	3 (7.5)	4 (5.5)	14 (5.1) 23 (12.3)	37 (7.9)
⑤	4 (2.1)	1 (2.9)	2 (4.1)	0 (0.0)	1 (2.5)	1 (1.4)	7 (2.6) 2 (1.1)	9 (1.9)
計	195	34	49	75	40	73	272 187	466

オ. ⑤学科（専攻）への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	29 (15.1)	5 (16.1)	2 (4.1)	13 (18.1)	8 (20.0)	27 (42.2)	60 (23.1) 24 (13.2)	84 (18.8)
②	69 (35.9)	19 (61.3)	28 (57.1)	31 (43.1)	14 (35.0)	21 (32.8)	113 (43.5) 65 (35.7)	182 (40.6)
③	56 (29.2)	5 (16.1)	15 (30.6)	25 (34.7)	12 (30.0)	8 (12.5)	54 (20.8) 65 (35.7)	121 (27.0)
④	23 (12.0)	1 (3.2)	2 (4.1)	3 (4.2)	5 (12.5)	7 (10.9)	22 (8.5) 19 (10.4)	41 (9.2)
⑤	15 (7.8)	1 (3.2)	2 (4.1)	0 (0.0)	1 (2.5)	1 (1.6)	11 (4.2) 9 (4.9)	20 (4.5)
計	192	31	49	72	40	64	260 182	448

カ. ⑥再受験・転学部志向の弱さ⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	81 (41.3)	17 (50.0)	17 (35.4)	27 (36.0)	13 (31.7)	33 (46.5)	104 (38.7) 80 (42.6)	188 (40.4)
②	50 (25.5)	6 (17.6)	14 (29.2)	16 (21.3)	12 (29.3)	18 (25.4)	65 (24.2) 49 (26.1)	116 (24.9)
③	39 (19.9)	4 (11.8)	10 (20.8)	21 (28.0)	7 (17.1)	10 (14.1)	55 (20.4) 34 (18.1)	91 (19.6)
④	20 (10.2)	7 (20.6)	5 (10.4)	9 (12.0)	6 (14.6)	9 (12.7)	36 (13.4) 20 (10.6)	56 (12.0)
⑤	6 (3.1)	0 (0.0)	2 (4.2)	2 (2.7)	3 (7.3)	1 (1.4)	9 (3.3) 5 (2.7)	14 (3.0)
計	196	34	48	75	41	71	269 188	465

キ. 現所属への不満の内容⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
大学の実情・制度に不満	15 (23.8)	1 (33.3)	5 (62.5)	10 (71.4)	5 (45.5)	6 (31.6)	28 (40.0) 14 (29.2)	42 (35.6)
当初志望からのレベル・ダウン	25 (39.7)	1 (33.3)	2 (25.0)	2 (14.3)	3 (27.3)	1 (5.3)	20 (28.6) 14 (29.2)	34 (28.8)
学部(科)不適応	14 (22.2)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (7.1)	0 (0.0)	3 (15.8)	6 (8.6) 13 (27.1)	19 (16.1)
個人的非充実感	4 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	3 (27.3)	6 (31.6)	11 (15.7) 3 (6.3)	14 (11.9)
その他	5 (7.9)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (10.5)	4 (5.7) 4 (8.3)	8 (6.8)
(志望進路にとって不十分)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0)
(入学以前の過去との関連)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.3)	1 (1.4) 0 (0.0)	1 (0.8)
計	63	3	8	14	11	19	70 48	118

ク. ⑨講義による自我支持感(面白さ)⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.4) 0 (0.0)	1 (0.2)
②	19 (9.7)	4 (11.8)	4 (8.0)	5 (6.7)	2 (4.9)	3 (4.1)	22 (8.1) 15 (8.0)	37 (7.9)
③	60 (30.6)	12 (35.3)	10 (20.0)	24 (32.0)	7 (17.1)	12 (16.4)	69 (25.3) 56 (29.8)	125 (26.7)
④	91 (46.4)	16 (47.1)	26 (52.0)	37 (49.3)	30 (73.2)	28 (38.4)	121 (44.3) 99 (52.7)	228 (48.6)
⑤	26 (13.3)	2 (5.9)	10 (20.0)	8 (10.7)	2 (4.9)	30 (41.1)	60 (22.0) 18 (9.6)	78 (16.6)
計	196	34	50	75	41	73	273 188	469

ケ. ⑩講義への適応感 (学力一ついていける)⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	3 (1.5)	4 (11.8)	4 (8.0)	6 (8.1)	5 (12.2)	16 (22.2)	31 (11.4) 7 (3.7)	38 (8.1)
②	69 (35.2)	17 (50.0)	24 (48.0)	35 (47.3)	13 (31.7)	15 (20.8)	112 (41.3) 59 (31.4)	173 (37.0)
③	106 (54.1)	9 (26.5)	18 (36.0)	30 (40.5)	15 (36.6)	33 (45.8)	104 (38.4) 101 (53.7)	211 (45.2)
④	16 (8.2)	4 (11.8)	4 (8.0)	3 (4.1)	8 (19.5)	5 (6.9)	23 (8.5) 17 (9.0)	40 (8.6)
⑤	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (4.2)	1 (0.4) 4 (2.1)	5 (1.1)
計	196	34	50	74	41	72	271 188	467

コ. ⑪講義への出席度⁽¹⁾

	計	
①	56 (20.6) 73 (39.0)	131 (28.1)
②	89 (32.7) 49 (26.2)	142 (30.5)
③	114 (41.9) 62 (33.2)	177 (38.0)
④	9 (3.3) 3 (1.6)	12 (2.6)
⑤	4 (1.5) 0 (0.0)	4 (0.9)
計	272 187	466

サ. ⑫教官との交流度⁽¹⁾

	計	
	2 (0.7) 1 (0.5)	3 (0.6)
	9 (3.3) 4 (2.1)	13 (2.8)
	17 (6.2) 10 (5.3)	27 (5.8)
	56 (20.5) 45 (23.9)	104 (22.2)
	189 (69.2) 128 (68.1)	322 (68.7)
	273 188	469

シ. ⑬サークル・クラブへの関与度⁽¹⁾

	計	
	73 (26.7) 42 (22.5)	118 (25.2)
	47 (17.2) 37 (19.8)	87 (18.6)
	31 (11.4) 33 (17.6)	64 (13.7)
	18 (6.6) 14 (7.5)	33 (7.1)
	104 (38.1) 61 (32.6)	166 (35.5)
	273 187	468

ス. ⑮下宿・寮生活における適応感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	43 (22.3)	10 (29.4)	11 (22.0)	12 (16.4)	17 (45.9)	18 (24.7)	71 (26.7) 39 (21.0)	111 (24.1)
②	91 (47.2)	15 (44.1)	17 (34.0)	31 (42.5)	11 (29.7)	30 (41.1)	98 (36.8) 92 (49.5)	195 (42.4)
③	32 (16.6)	6 (17.6)	16 (32.0)	22 (30.1)	4 (10.8)	13 (17.8)	59 (22.2) 33 (17.7)	93 (20.2)
④	20 (10.4)	3 (8.8)	6 (12.0)	6 (8.2)	3 (8.1)	8 (11.0)	29 (10.9) 16 (8.6)	46 (10.0)
⑤	7 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.7)	2 (5.4)	4 (5.5)	9 (3.4) 6 (3.2)	15 (3.3)
計	193	34	50	73	37	73	266 186	464

セ. 現在の最も力を入れている活動（自我関与的活動）⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
将来の準備	3 (1.7)	0 (0.0)	2 (4.5)	2 (3.0)	1 (2.6)	0 (0.0)	7(2.8) 1(0.6)	8 (1.9)
出席・単位 取得・進級	8 (4.4)	0 (0.0)	4 (9.1)	4 (6.1)	2 (5.3)	0 (0.0)	11(4.4) 7(4.2)	18 (4.2)
学業それ 自体	10 (5.6)	5 (16.7)	3 (6.8)	9 (13.6)	5 (13.2)	8 (12.1)	30(11.9) 10(6.0)	40 (9.4)
読 書 人間形成	22 (12.2)	7 (23.3)	8 (18.2)	7 (10.6)	3 (7.9)	14 (21.2)	35(13.9) 24(14.4)	61 (14.4)
クラブ・サ ークル活動 クラス活動	79 (43.9)	9 (30.0)	12 (27.3)	21 (31.8)	8 (21.1)	24 (36.4)	82(32.5) 69(41.3)	153 (36.1)
遊び・趣味	14 (7.8)	2 (6.7)	5 (11.4)	4 (6.1)	4 (10.5)	3 (4.5)	21(8.3) 11(6.6)	32 (7.5)
交友関係	12 (6.7)	4 (13.3)	5 (11.4)	7 (10.6)	2 (5.3)	5 (7.6)	20(7.9) 14(8.4)	35 (8.3)
そ の 他	32 (17.8)	3 (10.0)	5 (11.4)	12 (18.1)	13 (34.2)	12 (18.1)	46(18.3) 31(18.6)	77 (18.1)
計	180	30	44	66	38	66	252 167	424

ソ. 最も重要な対人関係・生活
領域（中核的自我領域）⁽⁴⁾

	計	
ク ラ ス 学 科	47(19.1) 25(15.0)	73 (17.5)
ク ラ ブ サ ー ク ル	48(19.5) 52(31.1)	103 (24.6)
寮・下 宿	39(15.9) 22(13.2)	61 (14.6)
友人一般 その他の友人	31(12.6) 20(12.0)	51 (12.2)
旧 友	6(2.4) 4(2.4)	10 (2.4)
家 族	13(5.3) 17(10.2)	31 (7.4)
師	2(0.8) 0(0.0)	2 (0.5)
そ の 他	60(24.4) 27(16.2)	87 (20.8)
計	246 167	418

タ. ⑰大学生生活全体での生きがい・充実感⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	2 (1.0)	0 (0.0)	1 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.7)	3(1.1) 2(1.1)	5 (1.1)
②	61 (31.6)	15 (41.1)	18 (36.0)	24 (32.9)	14 (34.1)	22 (30.1)	96(35.4) 56(30.3)	154 (33.2)
③	72 (37.3)	8 (23.5)	12 (24.0)	26 (35.6)	11 (26.8)	17 (23.3)	78(28.8) 67(36.2)	146 (31.5)
④	49 (25.4)	11 (32.4)	18 (36.0)	23 (31.5)	11 (26.8)	28 (38.4)	82(30.3) 53(28.6)	140 (30.2)
⑤	9 (4.7)	0 (0.0)	1 (2.0)	0 (0.0)	5 (12.2)	4 (5.5)	12(4.4) 7(3.8)	19 (4.1)
計	193	34	50	73	41	73	271 185	464

チ. 総括的適応感⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	12 (6.2)	0 (0.0)	1 (2.0)	3 (4.0)	2 (4.9)	4 (5.6)	14 (5.1) 8 (4.3)	22 (4.7)
②	40 (20.6)	14 (41.2)	10 (20.0)	19 (25.3)	7 (17.1)	25 (34.7)	79 (29.0) 34 (18.3)	115 (24.7)
③	79 (40.7)	10 (29.4)	23 (46.0)	30 (40.0)	19 (46.3)	16 (22.2)	102 (37.5) 70 (37.6)	177 (38.0)
④	49 (25.3)	8 (23.5)	13 (26.0)	18 (24.0)	10 (24.4)	20 (27.8)	58 (21.3) 60 (32.3)	118 (25.3)
⑤	14 (7.2)	2 (5.9)	3 (6.0)	5 (6.7)	3 (7.3)	7 (9.7)	19 (7.0) 14 (7.5)	34 (7.3)
計	194	34	50	75	41	72	272 186	466

ツ. 総括的適応群における適応感の理由⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
欲求充足・目標達成	7 (11.3)	0 (0.0)	1 (6.7)	3 (15.8)	3 (21.4)	6 (27.3)	15 (17.0) 5 (9.1)	20 (13.8)
不満・不都合がない	12 (19.4)	2 (15.4)	4 (26.7)	5 (26.3)	5 (35.7)	3 (13.6)	22 (25.0) 9 (16.4)	31 (21.4)
充 実 感	7 (11.3)	1 (7.7)	2 (13.3)	2 (10.5)	1 (7.1)	4 (18.2)	10 (11.2) 7 (12.7)	17 (11.7)
余裕感・自由感	7 (11.3)	1 (7.7)	2 (13.3)	1 (5.3)	0 (0.0)	2 (9.1)	5 (5.7) 7 (12.7)	13 (9.0)
学業の円滑さ	2 (3.2)	0 (0.0)	2 (13.3)	0 (0.0)	1 (7.1)	2 (9.1)	6 (6.8) 1 (1.8)	7 (4.8)
友 人	13 (21.0)	6 (46.2)	2 (13.3)	3 (15.8)	3 (21.4)	4 (18.2)	15 (17.0) 16 (29.1)	31 (21.4)
クラブ・サークル	3 (4.8)	1 (7.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	1 (7.1)	0 (0.0)	5 (5.7) 1 (1.8)	6 (4.1)
人間形成・成長・自我拡大	3 (4.8)	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.2) 2 (3.6)	4 (2.8)
そ の 他	8 (12.9)	1 (7.7)	1 (6.7)	5 (26.3)	0 (0.0)	1 (4.5)	8 (9.1) 7 (12.7)	16 (11.0)
計	62	13	15	19	14	22	88 55	145

テ. 非適応感の理由⁽³⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
大学外の環境について	13	3	2	6	4	9	22 (28.6) 15 (20.3)	37 (24.3)
大学の諸条件について	9	1	7	6	1	9	23 (29.9) 10 (13.5)	33 (21.7)
学業について	30	9	7	9	10	18	44 (57.1) 37 (50.0)	84 (55.3)
生活リズム・時間について	37	10	12	12	7	23	63 (81.8) 35 (47.3)	101 (66.4)
対人関係について	22	2	5	4	5	11	26 (33.8) 23 (31.1)	49 (32.2)
家族・故郷からの分離について	4	1	1	1	1	9	12 (15.6) 5 (6.8)	17 (11.2)
非適応群計	63	10	16	23	13	27	77 74	152

ト. 総括的適応のための方法 (中間群・非適応群における)⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
Identity の形成	18 (16.8)	2 (12.5)	4 (26.7)	4 (12.1)	0 (0.0)	1 (3.6)	12 (10.7) 16 (15.7)	29 (13.4)
生活態度の改善	16 (15.0)	3 (18.8)	1 (6.7)	6 (18.2)	8 (44.4)	2 (7.1)	19 (17.0) 16 (15.7)	36 (16.6)
考える時間を作る	11 (10.3)	3 (18.8)	0 (0.0)	2 (6.1)	0 (0.0)	3 (10.7)	5 (4.5) 13 (12.7)	19 (8.8)
生活リズムの回復	13 (12.1)	0 (0.0)	2 (13.3)	0 (0.0)	1 (5.6)	3 (10.7)	7 (6.3) 12 (11.8)	19 (8.8)
もがcommitmentの増大方向	12 (11.2)	2 (12.5)	2 (13.3)	9 (27.3)	1 (5.6)	5 (17.9)	18 (16.1) 13 (12.7)	31 (14.3)
もがcommitmentの縮小方向	4 (3.7)	1 (6.3)	0 (0.0)	1 (3.0)	0 (0.0)	1 (3.6)	4 (3.6) 3 (2.9)	7 (3.2)
環境条件の改善	11 (10.3)	1 (6.3)	1 (6.7)	4 (12.1)	1 (5.6)	2 (7.1)	13 (11.6) 7 (6.9)	20 (9.2)
どうすればいいかわからない	10 (9.3)	2 (12.5)	3 (20.0)	3 (9.1)	0 (0.0)	6 (21.4)	15 (13.4) 9 (8.8)	24 (11.1)
その他	12 (11.2)	2 (12.5)	2 (13.3)	4 (12.1)	7 (38.9)	5 (17.9)	19 (17.0) 13 (12.7)	32 (14.7)
計	107	16	15	33	18	28	112 102	217

C. 将来の生活の予想・展望

ナ. 今後の教養部生活で最も力を入れたい活動(自我関与的活動)⁽⁴⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
将来の準備	3 (1.6)	3 (11.1)	1 (2.1)	5 (7.9)	0 (0.0)	1 (1.4)	7(2.9) 6(3.5)	13 (3.1)
出 席 単位取得・進級	29 (15.8)	3 (11.1)	9 (24.3)	14 (22.2)	6 (16.2)	4 (5.8)	37(15.5) 26(15.3)	65 (15.6)
学業それ自体	66 (36.1)	11 (40.7)	11 (29.7)	18 (28.6)	15 (40.5)	24 (34.8)	80(33.5) 63(37.1)	145 (34.9)
読書・人間形成	18 (9.8)	4 (14.8)	4 (10.8)	8 (12.7)	1 (2.7)	12 (17.4)	30(12.6) 16(9.4)	47 (11.3)
クラブ活動 サークル活動 クラス活動	32 (17.5)	0 (0.0)	3 (8.1)	8 (12.7)	5 (13.5)	12 (17.4)	33(13.8) 25(14.7)	60 (14.4)
遊び・趣味	3 (1.6)	0 (0.0)	3 (8.1)	1 (1.6)	3 (8.1)	3 (4.3)	9(3.8) 4(2.4)	13 (3.1)
交友関係	12 (6.6)	3 (11.1)	4 (10.8)	6 (9.5)	2 (5.4)	6 (8.7)	17(7.1) 16(9.4)	33 (7.9)
その他	20 (10.9)	3 (11.1)	2 (5.4)	3 (4.8)	5 (13.5)	7 (10.1)	26(10.9) 14(8.2)	40 (9.6)
計	183	27	37	63	37	69	239 170	416

ニ. 学部移籍後に最も力を入れたい活動⁽⁴⁾

計	
7(3.3) 4(2.7)	12 (3.3)
9(4.3) 4(2.7)	13 (3.6)
138(66.0) 121(81.8)	263 (72.5)
13(6.2) 3(2.0)	16 (4.4)
5(2.4) 4(2.7)	10 (2.8)
3(1.4) 0(0.0)	3 (0.8)
5(2.4) 1(0.7)	6 (1.7)
29(13.9) 11(7.4)	40 (11.0)
209 148	363

ヌ. 今後の全体的適応の予想(教養部について)⁽¹⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
①	5 (2.7)	1 (3.0)	2 (4.2)	1 (1.4)	2 (4.9)	5 (7.1)	13(4.9) 3(1.6)	16 (3.5)
②	59 (31.4)	15 (45.5)	15 (31.3)	19 (25.7)	9 (22.0)	27 (38.6)	91(34.3) 50(27.5)	144 (31.7)
③	109 (58.0)	16 (48.5)	27 (56.3)	49 (66.2)	26 (63.4)	31 (44.3)	140(52.8) 115(63.2)	258 (56.8)
④	10 (5.3)	0 (0.0)	4 (8.3)	5 (6.8)	3 (7.3)	4 (5.7)	14(5.3) 11(6.0)	26 (5.7)
⑤	5 (2.7)	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	3 (4.3)	7(2.6) 3(1.6)	10 (2.2)
計	188	33	48	74	41	70	265 182	454

ネ. 卒後進路⁽²⁾

	P	L	E	S	A	M	計	
大 学 院	15 (7.7)	6 (17.6)	5 (10.0)	30 (40.0)	5 (12.2)	26 (36.1)	68 (25.1) 16 (8.5)	87 (18.6)
就 職	149 (76.4)	17 (50.0)	30 (60.0)	20 (26.7)	20 (48.8)	19 (26.4)	114 (42.1) 137 (72.9)	255 (54.6)
家 事 ・ 家 業	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	0 (0.0)	2 (0.7) 0 (0.0)	2 (0.4)
未 定	30 (15.4)	11 (32.4)	15 (30.0)	25 (33.3)	15 (36.6)	27 (37.5)	87 (32.1) 35 (18.6)	123 (26.3)
計	195	34	50	75	41	72	271 188	467

資料Ⅲ. 第3回調査集計の主要結果 (Sは1名のみなので枠はとらず計に算入する)

A. 人生指針・生き方

ア. ⑯考える時間の多少 (総括)⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	32 (16.7)	5 (15.6)	6 (14.3)	3 (11.5)	11 (20.8)	31 (18.6) 26 (15.8)	57 (16.5)
②	68 (35.4)	10 (31.3)	10 (23.8)	5 (19.2)	13 (24.5)	36 (21.6) 66 (40.0)	107 (30.9)
③	46 (24.0)	7 (21.9)	12 (28.6)	3 (11.5)	20 (37.7)	47 (28.1) 36 (21.8)	88 (25.4)
④	24 (12.5)	6 (18.8)	7 (16.7)	8 (30.8)	4 (7.5)	26 (15.6) 22 (13.3)	49 (14.2)
⑤	22 (11.5)	4 (12.5)	7 (16.7)	7 (26.9)	5 (9.4)	27 (16.2) 15 (9.1)	45 (13.0)
計	192	32	42	26	53	167 165	346

イ. ⑰確立感⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	16 (8.3)	2 (6.5)	4 (9.5)	3 (11.5)	4 (7.5)	14 (8.4) 15 (9.1)	29 (8.4)
②	25 (13.0)	4 (12.9)	3 (7.1)	2 (7.7)	7 (13.2)	18 (10.8) 21 (12.7)	41 (11.9)
③	73 (38.0)	12 (38.7)	11 (26.2)	6 (23.1)	26 (49.1)	55 (33.1) 68 (41.2)	128 (37.1)
④	34 (17.7)	6 (19.4)	11 (26.2)	2 (7.7)	3 (5.7)	25 (15.1) 30 (18.2)	57 (16.5)
⑤	44 (22.9)	7 (22.6)	13 (31.0)	13 (50.0)	13 (24.5)	54 (32.5) 31 (18.8)	90 (26.1)
計	192	31	42	26	53	166 165	345

B. 現在までの生活の評価

ウ. ⑳弘前大学への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	32 (16.7)	1 (3.1)	3 (7.1)	3 (11.5)	2 (3.8)	18 (10.8) 22 (13.3)	41 (11.8)
②	86 (44.8)	15 (46.9)	19 (45.2)	8 (30.8)	20 (37.7)	63 (37.7) 80 (48.5)	148 (42.8)
③	55 (28.6)	11 (34.4)	13 (31.0)	11 (42.3)	17 (32.1)	52 (31.1) 48 (29.1)	108 (31.2)
④	14 (7.3)	4 (12.5)	5 (11.9)	4 (15.4)	13 (24.5)	28 (16.8) 12 (7.3)	40 (11.6)
⑤	5 (2.6)	1 (3.1)	2 (4.8)	0 (0.0)	1 (1.9)	6 (3.6) 3 (1.8)	9 (2.6)
計	192	32	42	26	53	167 165	346

エ. ④学部への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	23 (12.0)	6 (18.8)	6 (14.3)	4 (15.4)	20 (37.7)	36 (21.6) 22 (13.3)	59 (17.1)
②	90 (46.9)	20 (62.5)	16 (38.1)	7 (26.9)	17 (32.1)	58 (34.7) 87 (52.7)	151 (43.6)
③	47 (24.5)	3 (9.4)	16 (38.1)	12 (46.2)	14 (26.4)	52 (31.1) 36 (21.8)	92 (26.6)
④	25 (13.0)	2 (6.3)	4 (9.5)	3 (11.5)	0 (0.0)	16 (9.6) 15 (9.1)	34 (9.8)
⑤	7 (3.6)	1 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.8)	5 (3.0) 5 (3.0)	10 (2.9)
計	192	32	42	26	53	167 165	346

オ. ⑤学科(専攻)への満足感⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	24 (12.5)	4 (15.4)	5 (12.8)	2 (7.7)	13 (30.2)	28 (18.3) 19 (11.8)	48 (14.7)
②	78 (40.6)	17 (65.4)	17 (43.6)	9 (34.6)	13 (30.2)	57 (37.3) 75 (46.6)	135 (41.3)
③	50 (26.0)	3 (11.5)	14 (35.9)	10 (38.5)	15 (34.9)	48 (31.4) 40 (24.8)	92 (28.1)
④	25 (13.0)	1 (3.8)	3 (7.7)	4 (15.4)	1 (2.3)	13 (8.5) 18 (11.2)	34 (10.4)
⑤	15 (7.8)	1 (3.8)	0 (0.0)	1 (3.8)	1 (2.3)	7 (4.6) 9 (5.6)	18 (5.5)
計	192	26	39	26	43	153 161	327

カ. ⑥再受験・転学部科志向の弱さ⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	89 (46.4)	12 (37.5)	21 (50.0)	12 (46.2)	23 (43.4)	77 (46.1) 71 (43.0)	157 (45.4)
②	42 (21.9)	8 (25.0)	11 (26.2)	5 (19.2)	18 (34.0)	38 (22.8) 44 (26.7)	84 (24.3)
③	33 (17.2)	7 (21.9)	5 (11.9)	7 (26.9)	6 (11.3)	23 (13.8) 33 (20.0)	58 (16.8)
④	25 (13.0)	5 (15.6)	5 (11.9)	2 (7.7)	5 (9.4)	26 (15.6) 16 (9.7)	43 (12.4)
⑤	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)	3 (1.8) 1 (0.6)	4 (1.2)
計	192	32	42	26	53	167 165	346

キ. 現所属への不満の内容⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
大学の実情に不満 制度	11 (18.0)	3 (27.3)	2 (33.3)	4 (50.0)	11 (68.8)	20 (37.7) 11 (24.4)	31 (30.4)
当初志望大学からの レベル・ダウン	22 (36.1)	0 (0.0)	1 (16.7)	2 (25.0)	2 (12.5)	11 (20.8) 14 (31.1)	27 (26.5)
志望進路にとって 不十分	5 (8.2)	6 (54.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	6 (11.3) 6 (13.3)	12 (11.8)
学部(科)不適応	15 (24.6)	1 (9.1)	2 (33.3)	0 (0.0)	1 (6.3)	9 (17.0) 9 (20.0)	19 (18.6)
個人的非充実感	6 (9.8)	0 (0.0)	1 (16.7)	1 (12.5)	2 (12.5)	6 (11.3) 3 (6.7)	10 (9.8)
そ の 他	2 (3.3)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9) 2 (4.4)	3 (2.9)
計	61	11	6	8	16	53 45	102

ク. ⑨講義による自我支持感(面白さ)⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6) 0 (0.0)	1 (0.3)
②	21 (11.1)	6 (18.8)	8 (19.0)	1 (3.8)	2 (3.8)	18 (10.8) 19 (11.7)	38 (11.0)
③	71 (37.4)	12 (37.5)	13 (31.0)	3 (11.5)	10 (18.9)	37 (22.2) 67 (41.1)	110 (32.0)
④	73 (38.4)	11 (34.4)	11 (26.2)	16 (61.5)	23 (43.4)	69 (41.3) 61 (37.4)	134 (39.0)
⑤	24 (12.6)	3 (9.4)	10 (23.8)	6 (23.1)	18 (34.0)	42 (25.1) 16 (9.8)	61 (17.7)
計	190	32	42	26	53	167 163	344

ケ. ⑩講義への適応感(学力一ついていける)⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	4 (2.1)	5 (15.6)	5 (11.9)	1 (3.8)	4 (7.5)	13 (7.8) 6 (3.7)	19 (5.5)
②	47 (24.9)	14 (43.8)	16 (38.1)	5 (19.2)	14 (26.4)	49 (29.5) 44 (27.0)	96 (28.0)
③	108 (57.1)	11 (34.4)	18 (42.9)	16 (61.5)	28 (32.1)	77 (46.4) 95 (58.3)	182 (53.1)
④	25 (13.2)	2 (6.3)	3 (7.1)	2 (7.7)	2 (26.4)	20 (12.0) 13 (8.0)	34 (9.9)
⑤	5 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.7)	5 (9.4)	7 (4.2) 5 (3.1)	12 (3.5)
計	189	32	42	26	53	166 163	343

コ ⑪ 講義への出席度⁽¹⁾

	計	
①	12 (7.2)	35 (10.2)
	23 (14.0)	
②	56 (33.7)	111 (32.4)
	51 (31.1)	
③	60 (36.1)	137 (39.9)
	68 (41.5)	
④	29 (17.5)	47 (13.7)
	18 (11.0)	
⑤	9 (5.4)	13 (3.8)
	4 (2.4)	
計	166	343
	164	

サ. ⑫ 教官との交流度⁽¹⁾

	計	
	2 (1.2)	2 (0.6)
	0 (0.0)	
①	13 (7.8)	20 (5.8)
	5 (3.1)	
②	22 (13.3)	36 (10.5)
	14 (8.6)	
③	38 (22.9)	69 (20.1)
	30 (18.4)	
④	91 (54.8)	216 (63.0)
	114 (69.9)	
計	166	343
	163	

シ. ⑬ サークル・クラブへの関与度⁽¹⁾

	計	
①	48 (28.7)	82 (23.7)
	30 (18.2)	
②	30 (18.0)	72 (20.8)
	40 (24.2)	
③	25 (15.0)	50 (14.5)
	23 (13.9)	
④	15 (9.0)	37 (10.7)
	18 (10.9)	
⑤	49 (29.3)	105 (30.3)
	54 (32.7)	
計	167	346
	165	

ス. ⑭ 友人の多さ⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	19 (9.9)	2 (6.3)	3 (7.1)	1 (3.8)	10 (18.9)	22 (13.2)	35 (10.1)
						11 (6.7)	
②	60 (31.4)	4 (12.5)	11 (26.2)	7 (26.9)	14 (26.4)	49 (29.3)	96 (27.8)
						44 (26.8)	
③	72 (37.7)	14 (43.8)	18 (42.9)	8 (30.8)	18 (34.0)	58 (34.7)	130 (37.7)
						66 (40.2)	
④	37 (19.4)	12 (37.5)	10 (23.8)	8 (30.8)	11 (20.8)	34 (20.4)	79 (22.9)
						42 (25.6)	
⑤	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.7)	0 (0.0)	4 (2.4)	5 (1.4)
						1 (0.6)	
計	191	32	42	26	53	167	345
						164	

セ. ⑮ 下宿・寮生活における適応感⁽¹⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	28 (19.4)	5 (18.5)	6 (18.8)	4 (21.1)	17 (32.7)	35 (25.5)	61 (22.2)
						23 (18.5)	
②	57 (39.6)	13 (48.1)	15 (46.9)	6 (31.6)	19 (36.5)	56 (40.9)	110 (40.0)
						51 (41.1)	
③	48 (33.3)	4 (14.8)	7 (21.9)	7 (36.8)	11 (21.2)	29 (21.2)	77 (28.0)
						41 (33.1)	
④	9 (6.3)	4 (14.8)	1 (3.1)	2 (10.5)	4 (7.7)	12 (8.8)	20 (7.3)
						7 (5.6)	
⑤	2 (1.4)	1 (3.7)	3 (9.4)	0 (0.0)	1 (1.9)	5 (3.6)	7 (2.5)
						2 (1.6)	
計	144	27	32	19	52	137	275
						124	

ソ. 1年間の自我関与的活動⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
将来の準備	3 (1.8)	0 (0.0)	2 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.9) 2 (1.4)	5 (1.6)
出席・単位取得・進級	11 (6.5)	2 (6.5)	1 (2.5)	2 (9.1)	3 (6.1)	10 (6.3) 9 (6.4)	19 (6.1)
学業それ自体	15 (8.8)	2 (6.5)	6 (15.0)	2 (9.1)	5 (10.2)	21 (13.3) 8 (5.7)	30 (9.6)
読書・人間形成	16 (9.4)	4 (12.9)	8 (20.0)	2 (9.1)	7 (14.3)	20 (12.7) 15 (10.6)	37 (11.8)
クラブ・サークル活動 クラス活動	67 (39.4)	9 (29.0)	9 (22.5)	6 (27.3)	10 (20.4)	46 (29.1) 50 (35.5)	102 (32.6)
遊び・趣味	9 (5.3)	0 (0.0)	1 (2.5)	3 (13.6)	5 (10.2)	12 (7.6) 5 (3.5)	18 (5.8)
交友関係	28 (16.5)	8 (25.8)	4 (10.0)	1 (4.5)	10 (20.4)	20 (12.7) 30 (21.3)	51 (16.3)
その他	21 (12.4)	6 (19.4)	9 (22.5)	6 (27.3)	9 (18.4)	26 (16.5) 22 (19.6)	51 (16.3)
計	170	31	40	22	49	158 112	313

タ. 最も重要な対人関係～生活領域(中核的自我領域)⁽⁴⁾

	計	
クラス・学科	25 (16.6) 18 (12.0)	45 (14.3)
クラブ・サークル	22 (14.6) 42 (28.0)	68 (21.6)
寮・下宿	14 (9.3) 8 (5.3)	22 (7.0)
友人一般・その他の友人	29 (19.2) 30 (20.0)	60 (19.0)
旧友	6 (4.0) 4 (2.7)	11 (3.5)
家族	7 (4.6) 14 (9.3)	21 (6.7)
師	2 (1.3) 1 (0.7)	3 (1.0)
その他	46 (30.5) 33 (22.0)	85 (27.0)
計	151 150	315

チ. 生きがいを感じる領域(自我支持領域)⁽⁴⁾

	計	
	3 (3.4) 4 (6.1)	7 (4.3)
	31 (35.6) 27 (40.9)	64 (39.5)
	3 (3.4) 2 (3.0)	5 (3.1)
	14 (16.1) 10 (15.2)	24 (14.8)
	0 (0.0)	0 (0.0)
	36 (41.4) 23 (34.8)	62 (38.3)
	87 66	162

ツ. ⑰大学生生活全体での生きがい・充実感⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	8 (4.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (7.7)	3 (5.8)	8 (4.8) 5 (3.0)	13 (3.8)
②	52 (27.1)	12 (37.5)	7 (16.7)	5 (19.2)	16 (30.8)	52 (31.3) 36 (21.8)	92 (26.7)
③	71 (37.0)	12 (37.5)	15 (35.7)	7 (26.9)	20 (38.5)	54 (32.5) 66 (40.0)	125 (36.2)
④	42 (21.9)	5 (15.6)	14 (33.3)	9 (34.6)	9 (17.3)	34 (20.5) 42 (25.5)	80 (23.2)
⑤	19 (9.9)	3 (9.4)	6 (14.3)	3 (11.5)	4 (7.7)	18 (10.8) 16 (9.7)	35 (10.1)
計	192	32	42	26	52	166 165	345

テ. 総括的適応感⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	5 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.8)	0 (0.0)	5 (3.0) 1 (0.6)	6 (1.7)
②	63 (33.2)	13 (40.6)	10 (23.8)	7 (26.9)	17 (32.1)	54 (32.3) 54 (33.1)	110 (32.0)
③	73 (38.4)	9 (28.1)	20 (47.6)	7 (26.9)	18 (34.0)	55 (32.9) 65 (39.9)	127 (36.9)
④	44 (23.2)	9 (28.1)	11 (26.2)	8 (30.8)	14 (26.4)	41 (24.6) 41 (25.2)	87 (25.3)
⑤	5 (2.6)	1 (3.1)	1 (2.4)	3 (11.5)	4 (7.5)	12 (7.2) 2 (1.2)	14 (4.1)
計	190	32	42	26	53	167 163	344

ト. 総合的適応群における適応感の理由⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
欲求充足・目標達成など	9 (13.4)	0 (0.0)	1 (11.1)	2 (28.6)	3 (17.6)	10 (17.9) 5 (9.4)	15 (13.5)
不満がない・不都合がない	7 (10.4)	1 (9.1)	3 (33.3)	0 (0.0)	2 (11.8)	7 (12.5) 5 (9.4)	13 (11.7)
充 実 感	14 (20.9)	2 (18.2)	1 (11.1)	2 (28.6)	3 (17.6)	10 (17.9) 12 (22.6)	22 (19.8)
余 裕 感 ・ 自 由 感	3 (4.5)	2 (18.2)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8) 5 (9.4)	6 (5.4)
学 業 の 円 滑 さ	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0) 1 (1.9)	1 (0.9)
友 人	13 (19.4)	2 (18.2)	1 (11.1)	1 (14.3)	4 (23.5)	8 (14.3) 13 (24.5)	21 (18.9)
クラブ・サークル活動	6 (9.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.4) 3 (5.7)	7 (6.3)
人間形成・成長・自我拡大など	11 (16.4)	1 (9.1)	1 (11.1)	2 (28.6)	2 (11.8)	11 (19.6) 6 (11.3)	17 (15.3)
そ の 他	3 (4.5)	2 (18.2)	1 (11.1)	0 (0.0)	3 (17.6)	6 (10.7) 3 (5.7)	9 (8.1)
計	67	11	9	7	17	56 53	111

チ. 非適応感の理由⁽³⁾

	P	L	E	A	M	計	
大 学 外 の 環 境	15	1	4	2	5	13 (24.5) 12 (27.9)	27 (26.7)
大 学	8	3	3	2	7	15 (28.3) 7 (16.3)	23 (22.8)
学 業	33	6	8	8	9	29 (54.7) 32 (74.4)	65 (64.4)
生活のリズム・時間	24	7	4	5	9	28 (52.8) 18 (41.9)	50 (49.5)
対 人 関 係	15	3	3	1	5	9 (17.0) 16 (37.2)	27 (26.7)
ク ラ ブ 活 動	12	3	1	1	3	7 (13.2) 11 (25.6)	20 (19.8)
家 族・故郷からの分離	4	0	0	1	3	5 (9.4) 3 (7.0)	8 (7.9)
そ の 他	6	1	3	1	3	7 (13.2) 7 (16.3)	15 (14.9)
非 適 応 群 計	49	10	12	11	18	53 43	101

C. 今後の生活の予想・展望

ツ. ②次年度の講義の予想
(面白さ)⁽¹⁾

	計	
①	9 (5.4) 4 (2.4)	13 (3.8)
②	28 (16.9) 35 (21.3)	65 (19.0)
③	71 (42.8) 95 (57.9)	177 (51.6)
④	37 (22.3) 26 (15.9)	63 (18.4)
⑤	21 (12.7) 4 (2.4)	25 (7.3)
計	166 164	343

テ. ②講義への適応の予想
(ついていける)⁽¹⁾

	計	
	20 (12.2) 6 (3.7)	26 (7.6)
	49 (29.9) 43 (26.2)	95 (27.9)
	79 (48.2) 101 (61.6)	189 (55.4)
	10 (6.1) 10 (6.1)	21 (6.2)
	6 (3.7) 4 (2.4)	10 (2.9)
計	164 164	341

ト. ②出席意欲⁽¹⁾

	計	
	43 (26.1) 72 (43.9)	120 (35.1)
	62 (37.6) 58 (35.4)	125 (36.5)
	50 (30.3) 33 (20.1)	86 (25.1)
	6 (3.6) 1 (0.6)	7 (2.0)
	4 (2.4) 0 (0.0)	4 (1.2)
計	165 164	342

ナ. ②教官との交流意欲⁽¹⁾

	計	
	53 (32.5) 47 (28.7)	105 (30.8)
	56 (34.4) 68 (41.5)	130 (38.1)
	44 (27.0) 44 (26.8)	91 (26.7)
	3 (1.8) 5 (3.0)	8 (2.3)
	7 (4.3) 0 (0.0)	7 (2.1)
計	163 164	341

ニ. ②研究室との交流意欲⁽¹⁾

	計	
①	57 (35.4) 60 (36.8)	123 (36.4)
②	47 (29.2) 64 (39.3)	116 (34.3)
③	50 (31.1) 34 (20.9)	86 (25.4)
④	2 (1.2) 4 (2.5)	7 (2.1)
⑤	5 (3.1) 1 (0.6)	6 (1.8)
計	161 163	338

ヌ. ②研究意欲⁽¹⁾

	計	
	79 (48.8) 71 (44.1)	157 (46.6)
	38 (23.5) 58 (36.0)	100 (29.7)
	36 (22.2) 30 (18.6)	68 (20.2)
	6 (3.7) 2 (1.2)	9 (2.7)
	3 (1.9) 0 (0.0)	3 (0.9)
計	162 161	337

ネ. ②サークル・クラブ活動への関与意欲

	計	
	17 (10.3) 6 (3.7)	24 (7.1)
	72 (43.6) 74 (46.0)	155 (45.6)
	47 (28.5) 58 (36.0)	109 (32.1)
	17 (10.3) 13 (8.1)	30 (8.8)
	12 (7.3) 10 (6.2)	22 (6.5)
計	165 161	340

ノ. 次年度の最も力を入れたい活動（自我関与的活動）⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
将来の準備	14 (8.2)	0 (0.0)	4 (10.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	9 (5.7) 10 (6.7)	19 (6.0)
出単位取得・進級・卒業 席	18 (10.5)	2 (6.3)	2 (5.0)	1 (4.2)	3 (5.9)	15 (9.6) 11 (7.4)	26 (8.2)
学業	96 (56.1)	19 (59.4)	21 (52.5)	17 (70.8)	17 (33.3)	70 (44.6) 90 (60.4)	171 (53.6)
読書・人間形成	11 (6.4)	8 (25.0)	4 (10.0)	1 (4.2)	9 (17.6)	19 (12.1) 14 (9.4)	33 (10.3)
クラブ・サークル活動 クラス活動	16 (9.4)	0 (0.0)	3 (7.5)	0 (0.0)	7 (13.7)	16 (10.2) 8 (5.4)	26 (8.2)
遊び・趣味	2 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.9)	4 (2.5) 1 (0.7)	5 (1.6)
交友関係	9 (5.3)	1 (3.1)	4 (10.0)	0 (0.0)	3 (5.9)	9 (5.7) 8 (5.4)	17 (5.3)
その他	5 (2.9)	2 (6.3)	2 (5.0)	4 (16.7)	9 (17.6)	15 (9.6) 7 (4.7)	22 (6.9)
計	171	32	40	24	51	157 149	319

ハ. ②今後の全体的適応の予想⁽⁴⁾

	P	L	E	A	M	計	
①	3 (1.6)	0 (0.0)	2 (5.9)	2 (7.7)	2 (3.8)	7 (4.3) 2 (1.2)	9 (2.7)
②	72 (38.3)	16 (50.0)	15 (44.1)	4 (15.4)	24 (45.3)	66 (40.7) 63 (38.7)	131 (39.2)
③	106 (56.4)	15 (46.9)	16 (47.1)	17 (65.4)	24 (45.3)	78 (48.1) 94 (57.7)	179 (53.6)
④	7 (3.7)	1 (3.1)	1 (2.9)	2 (7.7)	3 (5.7)	10 (6.2) 4 (2.5)	14 (4.2)
⑤	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.8)	0 (0.0)	1 (0.6) 0 (0.0)	1 (0.3)
計	188	32	34	26	53	162 163	334

ヒ. 卒後進路⁽²⁾

	P	L	E	A	M	計	
大学院	13 (6.9)	4 (12.5)	4 (10.0)	3 (11.5)	17 (32.7)	31 (18.9) 9 (5.6)	41 (12.1)
就職	144 (76.2)	18 (56.3)	25 (62.5)	15 (57.7)	11 (21.2)	83 (50.6) 122 (75.3)	214 (62.9)
未定	32 (16.9)	10 (31.3)	11 (27.5)	8 (30.8)	24 (46.2)	50 (30.5) 31 (19.1)	85 (25.0)
計	189	32	40	26	52	164 162	340